

第五十九回
帝國議會
貴族院

競馬法中改正法律案特別委員會議事速記録第一號

付託議案

牧野法案

競馬法中改正法律案

委員氏名

委員長 伯爵黒木 三次君
副委員長 岡田 文次君

侯爵徳川 頼貞君

子爵池田 政時君

子爵立花 種忠君

子爵數 篤麿君

子爵西尾 忠方君

大島 健一君

男爵鍋島 直明君

男爵小原 駱吉君

坂西利八郎君

男爵千田 嘉平君

男爵關 義壽君

中村純九郎君

馬場 鉄一君

加藤政之助君

山崎 龜吉君

鳴海周次郎君

昭和六年三月二十二日(日曜日)午前十時
十八分開會

○委員長(伯爵黒木三次君) 是ヨリ特別委員會ヲ開會イタシマス、本委員會ニ付託セラレタ法案ハ競馬法中改正法律案及牧野法案デゴザリマスルガ、是ハ會期逼迫ノ今日纏メテ主務大臣ノ御説明ヲ願ヒタイト存ジマスルガ、其旨御了承ヲ願ヒマス。

○國務大臣(町田忠治君) 只今委員長ノ仰セニ從ヒマシテ、競馬法中改正法律案ニ併セテ牧野法案ヲ提出イタシマシテ理由ヲ大體申上ゲマス、御承知ノ通り大體ノ趣意ハ本會議ノ節ニ申述ベマシタガ、更ニ附加ヘテ此席デ申上ゲルコトニ致シマス、御承知ノ通り競馬法ハ施行以來既ニ八年ヲ經過シテ居リマシテ、尙ホ一昨年一部ノ改正ヲ見タノデアリマス、競馬施行ノ實際ニ徴シマシテ、尙ホ之ガ改正ヲ要スベキ點ガ少ナクナイノデアリマスガ爲ニ、此度提案ヲ致シタノデアリマス、今回改正ノ要點ヲ申上ゲマスルト、第一ハ、勝馬投票制度ヲ一層合理的ニ致シタコトデアリマス、從來ノ單勝式勝馬投票ニ今回ハ更ニ複勝式勝馬投票ヲモ併セ行フコトト致シマシタ、勝馬投票者ト云フノハ二ツノ式ト致シマシテ、一ノ競爭ニ一人各一枚宛發行シ得ルコトトシ、單

勝式ノ投票、複勝式ノ投票トシテ各一枚宛發行シ得ルコトトスルト同時ニ、從來ハ投票の中者少クシテ拂戻ノ制限ヲ超過シタル場合ニ於キマスル其超過金額並ニ的中者ガ全クゴザイマセヌ場合ニ於キマスル賣得金ハ俱樂部ノ收得トナツテ居タモノデアリマスルガ、之ヲ投票券購買者ニ拂戻スコトト致シタノデアリマス、尙ホ拂戻金額並ニ的中者ニ對スル拂戻ノ……債權ト申シマスハ、當然之ヲ拂戻スベキ債權ハ一年間行ハレヌ時ニハ時効ニ依ッテ消滅スルコトト致シタノデアリマス、第二ハ、競馬開催ノ期間ヲ延長シテ、從來一回ノ競馬日數ハ六日以内トシテアリマシタノヲ、此度ハ八日以内ト改メタノデアリマス、申上ゲル迄モナク八日以内ト致シマシタノハ、必ズ八日ヤレト云フ意味デナイコトハ、從來ノ六日以内トシテ或ハ五日位シカヤラヌ競馬俱樂部ガアッタト同ジ意味デアアルノデアリマス、之ヲ二日間延バシタノデアリマス、競馬開催ノ日數ニ付キマシテハ、一昨年六日ニ致シマシタ經驗ニ依ッテ考ヘテ見マスルト、出走馬ノ數及ビ競走ノ種類等ニ鑑ミマシテ、尙ホ二日位増スコトガ馬事振興上適當ナリト

考ヘタ次第デアリマス、第三ハ、政府納付金ニ對スル改正デアリマス、近年本法ニ依ル競馬開催ニ關シテハ地方稅ヲ課シテ居ルモノモアリマスルシ、又將ニ課セムトシテ居ルモノモアルノデアリマスガ、政府直接ノ指導監督ノ下ニ競馬ヲ行ヒマスル全國的ノ機關ニ對シテ地方稅ヲ課スルノハ、種ナル點カラ見テ適當デナイト考ヘタノデアリマス、今回ハ競馬ノ收入ヲ齊シク中央ニ收ムルコトト致シテ、且ツ勝馬投票ニ關スル改正及開催期間ノ改正ニ伴ヒマシテ、俱樂部ノ負擔力ハ相當餘裕ヲ生ズルモノト考ヘマシタガ故ニ、政府納付金ノ率ハ從來勝馬投票券賣得金ノ百分ノ四以内デアリマシタノヲ、此度ハ百分ノ六以内ト改メタノデアリマス、尙又納付金ノ使途ニ付キマシテハ、今回新ニ之ヲ馬ノ改良増殖及ビ馬事思想ノ普及ノ爲ニ必要ナル經費ヲ第一トシテ、之ニ加フルニ社會事業ノ爲ニ必要ナル經費ニ幾分ヲ振當テルコトトシテ、必ズ此二ツニ限ッテ此收得金ヲ使フコトト致シマシタノデアリマス、尙ホ此社會事業ニ幾分ヲ投ズルト云フコトヲ加ヘマシタ爲ニ、收得金ヲ如何ニ分割スルカト云フ規定ヲ設ケテ、

勝式ノ投票、複勝式ノ投票トシテ各一枚宛發行シ得ルコトトスルト同時ニ、從來ハ投票の中者少クシテ拂戻ノ制限ヲ超過シタル場合ニ於キマスル其超過金額並ニ的中者ガ全クゴザイマセヌ場合ニ於キマスル賣得金ハ俱樂部ノ收得トナツテ居タモノデアリマスルガ、之ヲ投票券購買者ニ拂戻スコトト致シタノデアリマス、尙ホ拂戻金額並ニ的中者ニ對スル拂戻ノ……債權ト申シマスハ、當然之ヲ拂戻スベキ債權ハ一年間行ハレヌ時ニハ時効ニ依ッテ消滅スルコトト致シタノデアリマス、第二ハ、競馬開催ノ期間ヲ延長シテ、從來一回ノ競馬日數ハ六日以内トシテアリマシタノヲ、此度ハ八日以内ト改メタノデアリマス、申上ゲル迄モナク八日以内ト致シマシタノハ、必ズ八日ヤレト云フ意味デナイコトハ、從來ノ六日以内トシテ或ハ五日位シカヤラヌ競馬俱樂部ガアッタト同ジ意味デアアルノデアリマス、之ヲ二日間延バシタノデアリマス、競馬開催ノ日數ニ付キマシテハ、一昨年六日ニ致シマシタ經驗ニ依ッテ考ヘテ見マスルト、出走馬ノ數及ビ競走ノ種類等ニ鑑ミマシテ、尙ホ二日位増スコトガ馬事振興上適當ナリト

考ヘタ次第デアリマス、第三ハ、政府納付金ニ對スル改正デアリマス、近年本法ニ依ル競馬開催ニ關シテハ地方稅ヲ課シテ居ルモノモアリマスルシ、又將ニ課セムトシテ居ルモノモアルノデアリマスガ、政府直接ノ指導監督ノ下ニ競馬ヲ行ヒマスル全國的ノ機關ニ對シテ地方稅ヲ課スルノハ、種ナル點カラ見テ適當デナイト考ヘタノデアリマス、今回ハ競馬ノ收入ヲ齊シク中央ニ收ムルコトト致シテ、且ツ勝馬投票ニ關スル改正及開催期間ノ改正ニ伴ヒマシテ、俱樂部ノ負擔力ハ相當餘裕ヲ生ズルモノト考ヘマシタガ故ニ、政府納付金ノ率ハ從來勝馬投票券賣得金ノ百分ノ四以内デアリマシタノヲ、此度ハ百分ノ六以内ト改メタノデアリマス、尙又納付金ノ使途ニ付キマシテハ、今回新ニ之ヲ馬ノ改良増殖及ビ馬事思想ノ普及ノ爲ニ必要ナル經費ヲ第一トシテ、之ニ加フルニ社會事業ノ爲ニ必要ナル經費ニ幾分ヲ振當テルコトトシテ、必ズ此二ツニ限ッテ此收得金ヲ使フコトト致シマシタノデアリマス、尙ホ此社會事業ニ幾分ヲ投ズルト云フコトヲ加ヘマシタ爲ニ、收得金ヲ如何ニ分割スルカト云フ規定ヲ設ケテ、

收得金ノ三分ノ二ヲ下ラザル部分ヲ馬事振興ノ爲ニ用ヒルト云フコトヲ明カニ法律ノ上ニ規定シタノデアリマス、第四ハ、罰則ノ改正デアリマシテ、競馬ノ隆盛ニ伴ヒ、勝馬投票ニ類似セル行爲ヲ爲スモノガ、近年ヲ逐ウテ増加シタノデアリマシテ、之ガ爲ニ風教上甚ダ面白カラヌ結果ヲ生ジテ居リマスルガ故ニ、此度ハ之ニ對シテ取締リノ規定ヲ設ケタノデアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ願ヒタイと思ヒマス、次ニ牧野法ノ提案ノ理由ハ、申ス迄モナク牧野ノ改良ハ牛馬ノ資質ヲ改善スルガ爲ニ必要缺クベカラザルト共ニ、牛馬ノ飼養費ヲ低減シテ農家ノ勞力ヲ節約シ、其生産飼育ヲ合理的ナラシメ、之ガ改良増殖ヲ圖テ、延イテ農山村ノ振興ニ資スル所ガ多イト思ヒマス、殊ニ優秀ナル馬ヲ育成スル爲ニハ牧野ノ改良ガ最モ緊要ナコトト存ジマス、我國現在ノ牧野ヲ見マスルト、其面積ハ放牧地約六十五万町歩、採草地約八十万町歩アリマス、其多クハ多年ノ慣行ニ依テ使用シテ居ルハ勿論、而モ之ヲ使用スル者ハ農山村ノ小農デアリマシテ、手入レモ不十分ナルノミナラズ、濫牧濫獲殆ド改良施設ヲ施サナカタガ爲ニ、地力ハ退減致シマシテ、漸次牧野ノ荒廢ヲ見ルニ至ル狀態ニアリマ

スコトハ如何ニモ遺憾ニ堪ヘマセヌ、之ガ維持改善ニ關シマスル對策ヲ講ズル必要ガ生ジテ來タノデアリマス、本案ニ於キマシテハ、地方公共團體ノ所有スル牧野ニ對シマシテ、其所有者ヲシテ管理方法ヲ定メシメ、牧野ノ維持改良ノ基礎ヲ確實ニスルト共ニ、一般牧野ニ於キマシテ、放牧又ハ採草ヲ爲ス者ヲシテ、國家助成ノ下ニ組合ヲ組織スルコトヲ得セシメ、從來ノ濫牧濫獲ノ弊ヲ矯メルト共ニ、進ンデ其維持改良ニ關スル各種ノ施設ヲ行ハシメ、且ツ牧野ノ荒廢防止、蟲害驅除豫防等ニ關シマシテ、ソレノ適當ナル方策ヲ講ジテ、此維持改善ヲ圖ラムトスル目的ヲ以テ新タニ牧野法ヲ作りマシテ、茲ニ提出イタシタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上御協賛ヲ願ヒマス

○委員長(伯爵黒木三次君) チョット委員長カラ御諮リ申上ゲタイコトガゴザイマシマス、是ハ只今便宜上、二ツノ法案ニ付テ主務大臣ノ御説明ヲ願ヒマシタガ、先ヅ競馬法中改正法律案、是ノ質疑ニ這入リタイト存ジマスルガ、ソレデ宜シウゴザイマスカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(伯爵黒木三次君) ソレデハ競馬法中改正法律案ニ付キマシテ、御質疑ヲ願ヒタイと思ヒマス、鍋島男爵ノ御通告ガゴ

ザイマシタガ……

○男爵鍋島直明君 今農林大臣ノ御説明ニ依リマシテ、今回ノ競馬法ノ改正ノ目的ハ略々了解イタシマシタガ、此競馬法制定ノ目的ト云フモノハ、馬ノ改良トソレカラ増殖及ビ此馬事思想ノ普及ヲ圖ルト云フコトガ、競馬法第一條ノ立法ノ精神デアル、所ガ今御話ニナル所ヲ見ルト、當時ノ立法ノ精神ニ副ハナイヤウニ思ハレルノデアリマス、過日ノ豫算委員會デ、私ガ馬政ノコトニ付テ質問ヲ致シマシタ、其事柄ハ、今繰返スコトニ付テハ多クノ時間ヲ費シマスカラ、今之ヲ述ベマセヌガ、今我國ノ馬匹ノ狀態ト云フモノハ、國防上頗ル憂慮ニ堪ヘナイ所ガアリマス、是ハ豫算委員會ニ於テモ縷々述ベテ置キマシタ、斯ノ如ク或ハ缺陷ヲ生ジハシナイカト云フヤウナ憂ガアル所デアリマスカラ、之ガ對策トシテハ、當局ハ益、此馬事ノ振興上ニ全力ヲ御注ギニナラナケレバナラヌコトダラウト思ヒマス、然ルニ一昨日ノ本會議ニ於ケル大臣ノ御説明ニ依リマスレバ、此度ハ佛蘭西ノ例ニ倣フテ、此度ノ改正ニ依テ得タル所ノ増收ノ一部ヲ以テ此社會事業ニ充當スルト云フコトヲ言ハレマシタガ、是ハ如何ナル理由デアリマスルカ、先ヅ是等ニ付テ御尋ネ

申上ゲマス

○國務大臣(町田忠治君) 其御質問ハ如何ニモ御尤ト存ジマス、衆議院ノ委員會ニ於キマシテモ、其點ハ私ヨリ詳シク申述ベテ置キマシタノデアリマス、從來農林省ニ於キマシテモ、種馬補充ノ施設ガ、財政上ノ關係カラ、私共ガ希望シテ居ルヤウニ十分參ッテ居ラヌ、缺陷ガ幾分カアッタノデアリマス、同時ニ貴衆兩院ニ於キマシテ、十數年前カラ屢々、牧野法制定ノ希望ガアリマシタ、衆議院ニ於キマシテハ、數回議員提出シテ牧野法案ガ通過シテ居ルト云フヤウナ事情デアリマス、ドウカ此牧野法ヲ制定シマシテ改良イタスコトニ付テ、考慮イタシテ居リマシタシ、種牡馬ノ充實ニ付キマシテモ考ヘテ居リマシテ、風教ヲ害セヌ範圍内ニ於キマシテ、競馬ニ依テ得マスル納付金ノ分量ヲ増シ、之ニ依テ其經費ニ充テタイト云フ考ヲ起シテ居ッテ、略々成案ガ出來テ居リマシタガ、馬政委員會ヲ開クヤウナ順序ガ付キマセズ、實ハ今年提出スルコトニ間ニ合ハヌカト思ッテ取敢ズ調査ヲ致シテ居リマシタ矢先ニ當ッテ、社會事業ノ最モ主ナルモノノ一ツトシテ、救護法ノ實施ガ經濟界ノ不況ニ伴ッテ益々急務ヲ要スルコトニ相成リマシタガ故ニ、此改正ニ依テ相當

ノ新ナ收入ヲ得マスルト、其一部分ヲ社會事業ニ充テル、救護法ノ財源ヲ造ルコトノ必要ガ此改正ヲ促ス動機トナツタコトハ事實デアリマス、併シ此改正ハ救護法ノ財源ヲ得ルガ爲ニ此改正ヲ行ナツタト御覽ノナイヤウニ願ヒタイノデアリマス、或ハ救護法ノ問題ガ生ゼヌケレバ、來年度提出スルコトニ相成ツタカモ知レマセヌ、救護法ノ財源ガナクトモ、此改正ニ依テ馬事振興、牧野法制定ヲ致ス考ガアリマシタガ、之ヲ促ス動機ニハ、確ニ救護法ヲ實施スル財源ノ一部ヲ得ルコトノ必要ガ之ヲ促シタコトハ事實デアリマス、而シテ申スマデモナク、今現ニ今日ノ法律ニ依テ競馬法ニ依テ得テ居リマスル納付金ハ、先ヅ百四十萬圓カラ百六十萬圓アリマス、而シテ今日馬事振興ノ爲ノ經費トシテ本年ノ本豫算デ御協賛ヲ得マシタノハ、二百六十萬圓ニナリマシテ、競馬法ニ依テ得タ收入以外ニ一般財源カラ百萬元位這入ッテ居ルノデアリマス、併シ是デモ足リマセヌ故ニ、此度ハ更ニ二百萬圓ノ新ナ增收ヲ得ルノデアリマス、其二百萬圓ノ增收ハ從來地方稅若クハ地方納付金トシテ、公認競馬所在地ノ十一ヶ所ノ府縣デ、相當ナモノヲ徵收シテ居リマシタノヲ、此度ハ地方納付金、若クハ地方稅トシ

テ課セナイコトト致シテ、一般競馬法ニ依テ得タ納付金ガ其意味ニ依テ相當増ス分量ガ少ナクナイノデアリマス、地方デ取ッテ居ッタモノヲ中央ニ戻シタト云フ形ニナリマシタガ爲ニ、相當ナ收入ヲ得マシタコトト、取締ノ方法ヲ改正シタコト、複勝式ニ致シタコト、或ハ日數ヲ幾分か希望ノアル公認競馬場ニ向ッテ八日以内ト致シタコトト、彼是三四ノ新ナ改正ニ依テ收入ヲ二百萬圓増ス、其中少ナクトモ三分ノ二ヲ下ラザル部分ダケハ牧野、馬事振興ノ爲ニ用フルト云フコトニ致シマシテ、競馬法ニ依テ得タ收入ノ三分ノ一以内ノ經費ヲ救護法ノ方ノ財源ト致シテ、而シテ救護法ハ全部デ幾ラノ經費ヲ要スルカト致シマスレバ、此度ノ追加豫算デ今御審議ヲ願ッテ居リマスル所ニ依テ、平年度ニ於テハ三百萬圓ニ相成ッテ居リマス、而シテ其中ノ一部百萬圓ハ競馬ニ依ッテ生ズル收入ヲ分ツタノデアリマスガ、茲ニ一ツ御了解ヲ願ヒマスルノハ、百萬圓ト云フ中ニモ、從來地方デ取ッタモノヲバ、コチラノ方ニ使フノデアリマスカラ、大體ニ於テ此改正ニ依ッテ得マスル眞ノ新ナル財源ハ、主ト申シテ宜シウゴザイマスガ、大部分ガ馬事振興ノ方ニ向ケラレテアッテ、救護法ニ參ル部分ハ、從來地方

デ取ッタモノヲ中央ニ移シタ關係カラ、救護法ニ大部分ハ參ルト斯ウ御覽下サレバ宜シイト思ヒマス、左様ニドウゾ御了解願ヒタイト思ヒマス、尙ホ之ヲ社會事業ニ使ヒマスルト云フ意味ハ獨リ佛蘭西ノミナラズ各國ガ左様イタシテ、斯様ナ收入ハ之ヲ、富豪ノ一種ノ娛樂見タヤウナコトデ得タ金ハ、貧民救助等ノ社會事業ニ使フコトガ宜シイト云フコトハ、近來ノ通念ニ相成ッテ居リマシテ、前内閣ガ一昨年改正ヲ致シマスル時モ、將來ハ此幾分ヲ社會事業ニ使ヒタイト云フ矢張り心持ヲ、明カニ議會デ委員會等ニ於テ説明イタシテ居リマスル程デアリマス、私共モ斯様ナ收入ハ一部ヲ貧困者ヲ救助スルコトニ使フノハ適當ト考ヘテ、此提案ヲ致シタノデアリマス

○男爵鍋島直明君 今歐洲ノ佛蘭西及各國ノ例ニ於テ娛樂事業ノ爲ニ得ル、其收益ノ一部ヲ以テ社會ニ何スルト云フコトハ分リマシタガ、此歐洲ノ佛蘭西及列強ノ國ノ馬匹ノ狀勢ト云フコトハ、一部皆様御承知デアリマセウ、連モ日本ノ比較スベキモノデナク、今ヤ日本ハ馬政ノ方針ノ三十年計畫ヲヤッテ居リマシテ、ケレドモマダ十分ナル成績ガ擧ガテ居リマセヌ、所ガ佛蘭西アタリハ馬ノ狀勢ト云フモノハ形式モモウ確定シテ居リマスルシ、體格モ殆ド良クナッテ居リマス、唯其能力ノコトニ付テ少シカラ注イデ居ルト云フヤウナ工合デアリマスルカラ、此歐羅巴各國ノ馬事上ノ關係カラ例ヲ取ラレルト云フコトハ、私ハ首肯ガ出來ナイ所デアリマス、又地方稅ノコトニ付テ今御話ガアリマシタガ、是ハ何レアト御質問申上ゲタイト思ヒマス、先程申述ベマシタ通りニ、我國ノ馬ノ狀勢ト云フモノハ、隨分憂慮ニ堪ヘナイ所ガアリマスルカラ、私ハ私ノ本旨トシテハ、得タ所ノ利益ハ全部是ハ馬產振興ノ方ニ向ケラレタイト云フコトヲ希望シテ居リマスル、此前提ノ下ニ、此度增收ノ一部ヲ社會事業ニ當テマスルガ、將來此金ハ後年度ニ至リマシテ外ニ財源ヲ得ルト云フコトニナリマシタナラバ、是ハ競馬法ノ本旨ニ戻リマシテ、全部御戻シニナルト云フ御考ガ政府ハアルノデゴザイマスカ

○國務大臣(町田忠治君) 私モ實ハ此研究ハマダ十分イタシテ居リマセヌガ、御話ノ通り馬事振興ノ爲ニ今日施設シナケレバナラスモノハ、相當多イヤウニ思ヒマス、唯佛蘭西アタリノ例ニ依リマシテ私ノ大略承知イタシテ居リマスルモノハ、佛蘭西ガ此經費ヲ多ク社會事業ニ投ジテ居ルコトガ、

他ノ列國ヨリモ佛蘭西ガ比較的多イノデアリマス、左様イタシマシテ、佛蘭西ハ何時頃カラソレデハ競馬ノ收入ノ一部ヲ社會事業ニ用ヒタカト申シマスルト、今ヨリ四十年前ト承知イタシテ居リマス、其時ニハソレデハ佛蘭西ハ馬事ニ關スル施設ハ十分行届イテ、金ガ餘クカラ初メテ社會事業ニ投ジタカト云フコトヲ能ク調べテ見マシタガ、四十年前ニ馬事振興ニ費シテ居ル總テノ經費ハ、今日カラ比レバ非常ニ少イ、又競馬ノ收入モ甚ダ少カッタノデアリマシテ、佛蘭西ノ四十年前ニ於キマシテハ、今後馬事振興ノ爲ニ要スル種々ナル施設ハ澤山アリマシタニ拘ラズ、早ヤ既ニ四十年前ニ於テ、其一部ヲ社會事業ニ投ジテ居リマシテ、次第ニソレガ殖エマスト同時ニ、馬事振興ノ方ノ施設モ進ミ、又社會事業ニ投ズル分量モ多カッタト云フノデ、其點ハ相當調べテ見マシタガ、最早計畫ガ立ッテ、馬事振興ニ對シテ斯様ナ經費ガ多ク要ラナイト云フ見据エガ付キマシテ、初メテ社會事業ニ投ジタノデハナイヤウデアリマスカラ、大體競馬ノヤウナモノカラ得マスト收入ハ、矢張り富豪ガ娛樂ノ爲ニ投ズルモノトノ大體ノ觀念カラ、其一部ヲ貧困救助ノ意味ニ於テ社會事業ニ使フト、斯ウ云フ考

デアリマシテ、御話ノ通り若シ行政財政ノ整理ニ依ッテ財源ガ出來タ場合ニハ、此全部ヲ馬事振興ノ爲ニ移スカト云フコトノ御尋ニ對シテハ出來ルダケハ左様ニ致シ、少クトモ三分ノ二ヲ下ラザル部分、即チ大部分ハ馬事振興ノ爲ニ用ヒルコトハ法律ニ既ニ明カニアリマスガ、他ニ財源ガ出來マシタ時ニハ、此全部ヲ馬事振興ノ爲ニ投ズルト云フコトノ御意見ニ對シテハ、卒直ニ申上ゲルト、私ハ責任ヲ以テ必ズサウ致ストハ申サレマセス、出來ルダケハ三分ノ二ヲ下ラザル部分ト云フモノヲ、馬事振興ノ爲ニ使フ部分ヲ一層大キクスルニ努力イタシマスガ、今後ノ財政ニ多少新ナ財源ガ出マシタ時ニ、各省ノ輕重、利害緩急ヲ考ヘマシテ、出來ルダケ御希望ニ副フヤウニハ致シマスケレドモ、豫メ此席ニ於テ、新ニ生ジタ財源ヲ先ヅ社會事業ノ一部ニ用ヒテ、馬事振興ノ爲ニ此全部ヲ用ヒルヤウニト云フコトハ、努力ハ致シマスルガ、財政上ノ都合、或ハ其實現ヲ必ズ御引受ケスルマデニ參ラヌコトハ遺憾デアリマス

○男爵鍋島直明君 馬ノ増殖ニ付キマシテハ、政府ハ私ガ馬政ノコトヲ質問イタシマシタコトニ對シマシテ、過日書面ヲ以テ御回答ヲ得マシタ、ソレニ書イデアリマスノニ、内地ニ於テ百五十万頭ヲ維持スルコトニ付キ努力シツツアルケレドモ、更ニ此増數ヲ圖ルコトハ相當困難ナル狀況ニアルヲ以テ、其實質ノ改善ヲ圖リ、合格率ヲ向上セシムルコトニ依リ軍部ノ要求ヲ滿タスト云フヤウナ御答ガアリマシタ、併ナガラ數ノコトニ付テハ豫算委員會ノ時ニ據、述ベテ置キマシタ通りニ、現在ニ於テハ百五十万ヨリモ餘程減ジテ居リマス、私ノ調べタ所ニ依リマスレバ……、ソレダカラ將來國防上ノ見地カラ見テ、有事ノ際ニ必要ナル所ノ馬ヲ得ル爲ニハ、ドウシテモ資質ヲ向上シナケレバナラス、即チ數ノ代リニ質ヲ以テ補フト云フコトニ付キマシテモ、政府ハ漸次向上シツツアルモノト確信スルト云フコトヲ御返答ニナリマシタ、我々モ漸次進歩シツツアルト云フコトハ認メテハ居リマスルガ、是ハ我々ノ想像ニ過ギナイコトデアリマス、本邦馬ノ狀況ハ、今進歩改良ノ道程ニアリマスルカラ、全體ニ付テ如何ニ改良ヲサレテ居リマスカ、具體的ニ之ヲ御示シテ願ヒタイト思ヒマス、此大正十二年ニ競馬法ガ制定サレ施行サレマシテ、又此大正十二年ニハ馬政ノ大方針タル所ノ第二期ノ計畫ニ移ッタ時デアリマス、又此丁度十二年ニハ馬政ノ機關ガ陸軍省ノ馬政局カ

ラ、農林省ニ移管サレタ時デアリマス、サウ云フ時デアリマスカラ、十分其間ニ調査研究セラレテ居ルコトガラウト思ヒマス、ソレダカラシテ大正十四年ニハ凡ソドウ云フヤウナ工合デアッタトカ、或ハ昭和三年ニハ如何ナル形勢ニアッタトカ云フコトヲ、具體的ニ之ヲ御示シテ願ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(町田忠治君) 稍、專門ニ關スルコトデアルカラシテ、私カラ申上ゲルノハ或ハ却ッテ御了解ガ得ニクイト思ヒマスカラ、畜産局長カラ……十二年競馬法制定以來、大體ニ於テ餘程改良シテ居ルト思ヒマスガ、其具體的ノコトハ、或ハ畜産局長及ビ陸軍々馬ノ關係ノ方モ御見エニナッテ居リマスカラ、其方カラ具體的ノ御答ヲ致シマス

○政府委員(戸田保忠君) 只今ノ御尋ニ對シマシテ、此全國ノ百四五十万頭ノ馬全部ニ付テ、一々申上ゲルコトハ、實際問題トシテ不可能デゴザイマスガ、一部ヲ……御推察ヲ願ヒマス一例ト致シマシテ、種馬ノ共進會ノ出品馬ノ馬體ノ測定ニ付キマシテ申上ゲレバ、大正十三年ニ……乘馬ニ付キマシテハ、或ハ胸圍デアリマスツカ、管圍デアリマスツカ云フヤウナモノヲ、十三年十四年、十五年、昭和二年、昭和三年ト較ベ

テ見マス、大體ニ於テ進歩シテ居ルト考
ヘルノデアリマス、ソレカラ輕軌馬ニ付キ
マシテモ同様デゴザイマスシ、重軌馬、小
格軌馬ニ付キマシテモ一例ヲ申上ゲレバ、

大正十三年ニ乘馬ノ胸圍率ガ百一十一「パー
セント」デアッタモノガ、昭和三年ニハ百十
二「パーセント」ニナリ、ソレカラ輕軌馬
ニ付キマシテハ百十三「パーセント」四ノモ
ノガ、百十五「パーセント」三ト云フ風ニナ
テ居リマス、重軌馬ハ胸圍率ガ百二十「パー
セント」三ガ百二十「パーセント」六ニナ
テ居リマス、小格軌馬ニ付キマシテハ胸圍率
ガ百十三「パーセント」二ガ百十四「パーセ
ント」一トナテ居リマス、是ハマア一例ヲ申上
ゲ
タノデアリマス、是ハ民間ノ種馬共進會ノ出品
馬ノ馬體ノ測定デゴザイマス、國有ノ種馬ニ
付キマシテモ、大體ニ於テ同様ノ數字ニナ
テ居リマス、國有種馬ノ馬體ノ測定、是
ハ只今持合セテ居リマス數字ハ、昭和元年
二年三年四年ダケデゴザイマスガ、大體ニ
於テ漸次良クナテ居リマス、各種別ニ付テ
ノ表ガゴザイマスガ、簡單ニ胸圍ト管圍ニ
付テ申上ゲマスレバ、計及平均ニ於キマシ
テ、胸圍ガ元年ニハ百十五、一ノガ昭和三年
ニハ百十五・九ニナテ居リマス、管圍ニ於
キマシテハ十二・九ノガ、十三・〇ニナテ居

リマス、大體ニ於テ進歩シテ居ルト考ヘル
次第デゴザイマス、尙ホ詳細ノコトハ説明
員ノ馬産課長ニ御許シテ願ヒマシテ申上
ゲ
タイト思ヒマス

○男爵鍋島直明君

私ハ此種牡馬ナドニ於
テハ餘リ……種牡馬デ一般ヲ窺ヒ知ルコト
ハ出來マスルカ知レマセヌガ、本邦馬ノ全
體ニ付テノコトヲ一番主眼トセナケレバナ
リマセヌカラ、ソレヲ伺ヒタイノデアリマ
ス、今無ケレバ、或ハ明日迄デモ宜シウゴ
ザイマスカラシテ、或ハ圖示スルコトガ出
來マスレバ、圖示シテデモ宜シウゴザイマ
ス、是ガ一番馬政上大事ナコトデアル、又一
般ノ日本ニ居ル所ノ馬ガドウ云フ狀況ニ
ナテ居ルノカト云フコトハ、能ク調査研究
イタサナケレバ何ニモナルマイと思フ、唯
種牡馬バカリデハ……農村ノ馬ノ狀況ト
云フモノハ種付ガ旨ク行テ居ルトカ、或ハ
ドウスルトカ云フコトガ明瞭ニナルマイト
思ヒマスルカラ、若シ或ハゴザリマシタナ
ラバ、統計ヲ取ツタ所ノ表トカ何トカ云フヤ
ウナモノヲ一ツ御示シテ願ヒタウゴザイマ
ス、今急デナクテモ宜シイ、此大事ナ時間
ヲ私ノ爲ニ費スノハ恐縮デス、是ハ私ハ後
ノ問題ニ譲リマス

○政府委員(戸田保忠君) 統計等ハ後ホド

差上ゲルコトニ致シマシテ、只今ハ種牡馬
等ニ付テノミ申上ゲマシタガ、一般ノ數字
ニ付キマシテ、是ハ胸圍率、管圍率デハゴ
ザイマセヌガ、血種ノ改良ノ全體ニ付テノ
モノガアリマスカラ、簡單ニ申上ゲマス、
例ヘバ十二年ハ和種ガ十八・三デアッタノガ
ソレガ昭和四年ニ七・九ニナテ居リマス、
洋種ノ方ハ十二年ニハ一・六デアリマシタ
ノガ、二・三ト云フ風デ、血種ノ方カラモ馬
全體ニ付テ改良ガ行ハレテ居リマス

○子爵西尾忠方君

今ノニチヨット關聯シ
テ……只今ノ政府當局ガ御讀上ゲニナリ
マシタ詳細ナ數ハ、非常ニ委員會ノ時間モ
切迫シテ居リマスルカラシテ、成ルベク早
ク表デ御廻シ下サイマシテ、表ノ上デ御説
明ヲ願ヒタイト思ヒマス、サモナイデ之ヲ
ス・カリ伺ッテ居リマスルト云フト、中ミ一
週間位ハ委員會ガ力カテモ行ケナイカト
思ヒマス、序デニ表ヲ參考トシテ戴キタイ
ノハ、各俱樂部別ノ地方税及ビ地方税ニ代
ル俱樂部ノ寄附金調、只今御配付ニナリマ
シタモノノ中デ調べマシタケレドモガ、是
ガゴザイマセヌカラシテ、之ヲ後ホド戴キ
タイト思ヒマス、序デニ陸軍ノ方ニ御願ヒ
致シタイノハ、最近ニ於ケル軍馬購買ノ頭
數トソレカラ一頭平均價格ノコトニ付キマ

シテ、御調べガゴザイマスレバ、是モ同ジ
ク表デ戴キタイト思ッテ居リマス、ソレダケ
ヲチヨット御願ヒシテ置キタイト思ヒマス

○男爵鍋島直明君

此競馬法ガ改正セラレ
マシテ實施セラルト致シマシタナラバ、
競馬會ト申シマスカ、或ハ競馬俱樂部ニナ
リマスカ、是ハ政府納付金ガ増加シタノト、
ソレカラ單勝式ノ外ニ新ニ複勝式ト云フヤ
ウナモノヲ加ヘラレマシテ、事務ガ非常ニ
繁多ニナッテ、其費用ガ倍加スルコトガラウ
ト思ヒマス、又新ニ此第六條ノ第一項、即
チ拂戻金ノ制限超過額ヲ投票券ノ購買者ニ
返付スルト云フコトニ依リマシテ、俱樂部
自體ノ收入ト云フモノハ著シク減少セラ
ルルガラウト思ヒマス、今日マデ競馬會カ
ラ馬事振興ノ爲ニ民間ノ馬事團體、或ハ生
産スル所ノ團體ト使役スル所ノ團體ト、サ
ウ云フモノニ尠カラザル補助金ヲ出シテ獎
勵ヲ致シマシテ、官民ガ同體トナッテ一致協
力シテ馬事ノ振興ヲ圖ッテ居リマス、若シ此
競馬會カラ出ス所ノ此補助金ガ杜絶スルト
カ或ハ非常ニ少クナルト云フコトニナッ
タナラバ、隨分是ハ大ナル問題ヲ起シハシ
ナイカ、大イニ憂慮ニ堪ヘナイ所デアリマ
ス、政府ハ之ニ對シテ何カ御考案ガゴザ
イマスカ

○國務大臣(町田忠治君) 御尤ノ御尋デア

リマス、御話ノ通り競馬俱樂部が此納付金以外並ニ地方ニ出シテ居リマスル寄附金以外ニ、大體四五十萬圓位ハ馬事振興ノ爲、或ハ良イ馬ヲ買入レルトカ、其他色ミナ馬事振興ノ爲ニ、好意的ト申シマスカ、任意デ出シテ居ル金ガ、私ノ記憶ニ依ルト年々四五十萬圓アルト思ヒマス、是ノ改正ニ依リマシテ……、年々拂戻シヲシナイガ爲ニ俱樂部ノ收入トナッテ居ルモノハ、大體二百萬圓位概算シテアルト思ッテ居リマス、ソレヲ以テ或ハ競馬場ノ改良トカ種々ナル施設ニ競馬俱樂部ハ用ヒルト同時ニ、馬事振興ノ爲ニ之ヲ公益ノ爲ニ寄附シテ居、タコトガ今申スヤウナ次第デアリマス、是ガ取上ゲラルルト云フコトニナリマスルト、餘程困難ヲ感ズルト云フ見方ハ、相當ノ理由アルコトデアリマスガ、私ノ方ノ取調ニ依ッテハ、追加豫算ニ書イテアリマスガ、此複勝式ヲヤルコト、ソレカラ日數ヲ増シ得ルコト及ビ取締ヲ嚴重ニシテ、從來所謂吞屋ナル者ニ多ク馬券ヲ買ハセ、吞屋ノ間ニ行ハレテ居ル一種ノ賭ケ事ハ著シク取締ニ依ッテ減ズル見込デアリマシテ、之ガ爲ニ複勝式ヲ併セテ行フ爲ニ、新ニ競馬觀覽ノ數ヲ増シ、並ニ賣上高ヲ増スコトガ、約三千萬圓

ハ少クトモ増スト斯ウ見テ居ルノデアリマス、從ッテ總高ガ差引増加スル爲ニ、大體從來百分ノ十五トシテ居、テ、政府ノ納付金ヲ差引イタ殘リガ、競馬俱樂部ノ收入トナッテ居リマスル部分ガ、賣上高ノ從來ニ比シテ七八割、少クトモ七割増スト云フコトニ依ッテ、俱樂部ノ收入モ相當大キク新ナ增收ガアルト、斯様ナ見方カラ見マスルト、今ノ二百萬圓ト云フ拂戻ノ殘額ヲ公共ノ爲及ビ俱樂部ノ爲ニ使ッテ居、タ、ソレヲ拂戻シ致シマシテモ、前申スヤウナ賣上高ノ増加ニ依ッテ、相當大キナ收入ガ俱樂部ニ參ルコトト思ヒマス、尙ホ拂戻ノコトハ、之ヲナシ得ルコトト致シマシテ、法令ニ依ッテ相當其施行スルコトニ緩急ヲ計リマスガ故ニ、俱樂部ノ財政ヲ困難ナラシムルト云フコトハ致サセヌヤウニ、順序ヲ追ッテヤリタイト思ッテ居リマス

○男爵鍋島直明君 今農相カラ御話ニナリ

マシタコトニ付テ、增收ガ得ルカ否カト云フコトハ、是ハ隨分問題デアラウト思ヒマス、先ヅ增收ガアルモノトシテ、ソレデ俱樂部自身ノ經費モサウ今マデヨリハ、或ハ減ジナイト云フヤウナ御判斷デゴザイマス、是ハマア取りヤウデアリマス、今マデ十一競馬ノ中ニ取ラレタ所ノ地方稅ガ、縣

廳ガ取ッタ所ガアリマスルカ、又聞ク所ニ依リマスレバ、地方稅ハ取ラナイ代リニ、各競馬會カラ寄附金ト云フモノヲ致シテ居、タトノコトデアリマスガ、其狀況ヲチョット伺ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(町田忠治君) 地方稅ヲ課シテ

居ル所モアリマシタ、又課セムトシテ居、タ府縣モアリマシタガ、色々ナ手續上ソレヲ略シマシテ、納付金ト致シテ居リマスガ、性質ハ地方稅ト御覽ニナッテ宜イカト思ヒマス、名前ハ地方稅デアリマセヌガ、性質ハ地方稅ノ性質ヲ帶ビテ居ル、納付金ト御承知ニナッテ宜カラウト思ヒマス、初メハ小倉アタリニ地方稅トシテ取ッテ居、タノデア

○男爵鍋島直明君 大正十二年ニ此競馬ガ

復興サレマシテ以來、實施サレタ所ノ競馬ノ指導監督ノ方法ガ、馬産ノ改良ヲ目標トスル競馬ノ目的ニ合致シテ居ルカ、是ハ疑ナキ能ハザル所デアリマス、併シ近時ハ稍、改良サレテアリマスルモ、所ニ依ッテハ、純然タル所ノ娛樂機關トナッテ、馬産ノ改良ト云フモノガ、其副産物ノヤウナモノニナッテシマッタヤウナ狀況ガアリマス、ソレデ民

衆ノ射利ト唯興味ヲ唆ルニ波々タルノ觀ガナイデモアリマセヌ、馬ノ改良、殊ニ軍用馬ヲ生産セントスル所ノ獎勵デアリマスルカラ、競馬場ノ地形ノ平坦開豁ナ所デナク變化アル土地ヲ以テスルトカ、馬政ノ第二期ノ計畫綱領ニモ示シテアリマスル通りニ、持久力ノ大ニシテ用途ノ廣イ馬ヲ得ルノヲ趣意ト致シマシタナラバ、即チ競馬ノ距離ト云フヤウナモノモ四千「メートル」以上ノ駈足競走ヲ六日間ニタツタ一回位ニ止マラズシテ、尙ホ増加スルヤウニ指導スルヤウナ必要ハナイデアリマセウカ、平坦砥ノヤウナ所デ僅カ千五百「メートル」以內ノ競馬デアリマスレバ、是ハ害ガアッテ利益ガナイト思ヒマス、佛蘭西ノアノ軍馬補充本部長モ言ッテ居リマスノニ、軍隊ノ補給ト何等關係ノナイ所ノ競馬ト云フモノハ無意義デアルト云フヤウナコトモ、先輩ハ言ウテ居ラレマス、サウ云フヤウナ狀況デアリマスカラ、此指導監督ト云フ方ニ付テノ政府ノ所見ヲ伺ヒタイ

○國務大臣(町田忠治君) 尙ホ具體的ナコ

トハ政府委員カラ申上、ゲマスガ、御話ノ通り娛樂機關ニ傾キ易イ性質ヲ持ッテ居ルコトハ申ス迄モアリマセヌガ、私ノ承知イタシマシタ所デハ、昔無制限ニヤッテ其弊害

ガアツガ爲ニ之ヲ禁シタ、大正十二年ニ矢張り軍事振興、馬事思想ノ普及ト云フ意味カラ之ヲ復活シタ爲ニ、相當馬事改良ノ上ニ效果ガ茲ニ具體的ニ現ハレテ居ルト承知イタシテ居リマス、併シ之ガ爲ニ風紀ヲ害セヌヤウナ風ニ取締ヲ嚴重ニシテ參ッテ、動モスレバ衝突スル二ツノ傾向ヲ出來ルダケ調和シテ參リタイト思ヒマス、私カラ申上ゲル迄モアリマセヌ、此度ノ複勝式ハ世ノ中デハ誤テ從來ノ競馬法ニ改正ヲ加ヘテ、尙ホ一層射倖心ニ懇ヘル意味ニ誤解シテ居ル者ガ世ノ中ニハ多少アルヤウデアリマスガ、其點ハ餘程研究シマシテ、此度ノ複勝式ハ若シ弊害ガ多少アルトスレバ、單勝式ノ方ニハ比較的アリマスガ、弊害ノ分量ハ複勝式ノ方ニ於テハ單勝式程ノ弊害ガナイト云フ意味カラ、此度ハ此提案ヲ致シタ趣意デゴザイマスカラ、其邊ハドウゾ御諒解ヲ願ヒタイト思ヒマス、尙ホ詳シイ具體的ナコトハ、政府委員カラ申上ゲマス

計上スルコトガ出來マシテ、競馬ノ施行ノ狀況ニ付キマシテモ御話ガアリマスヤウニ、軍事上ノ要求ニモ成ルベク近ツカシムベク努力ヲ致シテ居ル次第デアリマシテ、一例ヲ申上ゲレバ例ハバ障礙競走ニ付キマシテハ、最近昭和三年以前ト昭和五年ノ實況トヲ較ベマスレバ、出走馬ノ頭數ニ付キマシテモ、昭和三年ニハ七十九頭デアリマシタガ、昭和五年ニハ二百十五頭ニナッテ居ル狀況デアリマス、ソレデ障礙競走ノ回數ニ付キマシテモ、昭和三年以前ニ較ベマシテ、昭和五年ニハ著シク回數ヲ増加シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、又連歩競走ニ付キマシテモ、昭和三年ト昭和五年ト比較イタシマスルト、回數ヲ著シク増加イタシテ居リマス、ソレカラ障礙競走ノ程度ニ付キマシテモ、從來ハ障礙回數モ非常ニ少クアッタノデアリマスガ、此以前ノ改正ノ際ニモ、色々委員會等ニ於キマシテモ御話ガゴザイマシテ、改正後陸軍ト協定イタシマシテ、或ル理想的ノ標準ヲ定メマシタ、唯現在ノ競馬俱樂部ノ實況ト之ヲ照シ合セテ、ソレヲ直チニ行フコトハ多少ノ無理ガアリマスノデ、漸ク追ウテ理想ニ到達スル爲ニ、目下ハ障礙ノ回數等ニ付テノ制限ヲ、從來ヨリハ著シク大キク致シマシテ、各俱樂部ノ

狀況ニ依リマシテ、大體ニ於テハ二種類ニ分チマスガ、札幌、函館、新潟、福島、宮崎ト云フヤウナ俱樂部ハ六回以上デアリマシテ、其他ノ大俱樂部ハ從來ノ二倍ノ八回以上ト云フヤウニ、障礙ノ回數モ制限ヲ増加イタシマシタ、ソレカラ優勝競走ニ付キマシテハ、大俱樂部ハ十回以上、只今申上ゲマシタヤウナ小俱樂部ニ於テハ八回以上ト云フヤウニ致シマシテ、變更ヲ致シテ居リマス、强健ナル馬モ種牡馬ニ適スルヤウニ努メテ居ル次第デアリマス、現ニ昨秋ノ如キハ、俱樂部ニ依リマシテハ十一回モ行ヒマシタヤウナ次第デアリマシテ、障礙競走ノ狀況モ數年前ノ狀況ニ較ベマスレバ漸次進歩ヲ致シテ居ル次第デアリマス、ソレカラ「アラブ」ノ競走モ漸次回數ヲ増シマシテ、一般駢足競走ノ三分ノ一以上、「アラブ」系ノ競走ニ充テラレルト云フヤウニシテ居ル次第デアリマス、御質問ノ御趣旨ニ適ヒマスヤウナ方法ヲ執ルコトニ努力イタシテ居ル次第デアリマス、尙ホ申落シマシタガ、斤量ノ増加、競走距離ノ増加ト云フヤウナコトニ付キマシテモ、漸次從來ト比較イタシマスレバ増加ヲシマシテ、理想ニ近ヅクヤウニ努力イタシテ居ル次第デアリマス、何分俱樂部ノ實際ノ現狀トノ關係ガ

アリマス爲ニ、直チニ理想ニ到達スルコトハ困難デアリマスノデ、漸ク追ウテ其方ニ進ミツツアル有様デアリマス

○委員長(伯爵黒木三次君) 成ルベク委員會ノ空氣ヲ和カニ致シタイト思ヒマスカラ、政府委員モ御立チニナラナイデ宜シウゴザイマス、御坐リノ儘御話シ下サイ

○男爵鍋島直明君 私人質問ハ此位デ宜シウゴザイマスカラ打切りマス

○馬場鏐一君 私人意見の質問ハ一切後廻シニシマシテ、實ハ衆議院ノ方ノ速記録ヲ拜見スル暇ガナイノデ、甚ダ御迷惑ト存ジマスガ、唯單純ナル一二ノ質問ヲ致シタイト思ヒマス、ソレハ今回ノ改正デ超過金ヲ購買者ニ拂戻ス、此命令ノ内容ナルモノハドウ云フモノデスカ、是ガ一點、詰リ省令ノ内容ノ御腹案ヲ伺ヒタイ、ソレカラ第二ニハ、衆議院ノ委員會デ希望條件カ何カ出テ居ッタヤウニ新聞デ拜見シタノデアリマスガ、其希望條件ト云フモノハドウ云フコトデアッタノデアリマスガ、茲ニ其希望條件ニ對シテ政府ハドウ云フ御答辯ニナッテ居リマスガ、御答辯ニナラナケレバ、此際其希望條件ニ關シテノ主務省ノ御意見ヲ伺ヒタイ、其二點ヲ伺ヒマス

○國務大臣(町田忠治君) 大體私カラ簡單

ニ御答シマス、拂戻金ノ方ハ命令ノ定ムル所ニ依ッテヤルヲ得ルトシテ、多少ユトリヲ付ケテ、主義トシテハ全部ヤル考デアリマスガ、直チニ全部ヤルコトハ或ハ困難デアリハセヌカト思ヒマスル事情モアリマス、其具體的ノコトハ畜産局長カラ申上、ゲルコトト致シマス、第二ノ御尋ハ御尤ナコトデアリマシテ、私共モ相當考慮シタノデアリマス、ソレハ今ノ競馬會……所謂何ト申シマスカ、此實狀ハ現行法律ニ依ッテ單勝式デヤッテ居リマシテ、二十圓券一枚ヲ發行スルト云フコトハ多數ノ觀覽者ニ不適當デア、之ヲ厲行シテ居ルガ爲ニ所謂吞屋ナルモノハ三圓トカ五圓トカ云フ僅カノ金デ賭ケ事ヲシテ、ソレガ盛ニナッテ來テ居ル、眞ニ風教ヲ害スル意味ヲ考慮シテ改正ヲスルナラバ、金高ヲ二十圓一枚ト云フコトノ此制度ヲ改メテ、先ヅ五圓券位四枚ヲ以テ二十圓トスルコトヲ得ト云フ改正ニシタ方ガ一番宜カラウ、而シテ假ニ五圓一枚ヲ買フモノトスルト、ソレニ的中シタモノハ矢張り十倍ヲ越スコトヲ得ナイ、五十圓ダケシカ矢張り貰ヘヌノデアルカラシテ、投票券ノ二十圓カラ五圓ニ下ゲタガ爲ニ、世ノ中ノ風教ヲ害スルト云フコトハアルマイ、此意味デ其改正ヲ主張シタル議員モ相當多

カッタノデアリマス、又競馬協會アタリノ實驗上カラモ、相當其意見ガ現ハレテ居リマシタノデアリマス、マダ一方ニハ今ノ法律デモ命令ニ依ッテ之ヲ五圓四枚ヲ合セテ二十圓ニ達スルト云フ、二十圓ノ制限内デアレバ枚數ヲ四ツニ割ルコトガ法律ノ改正ナクトモ出來ルト云フ意見モアリマシタ、實ハ司法當局トモ其點ニ對シテ相當互ニ研究シマシタガ、マダ司法省ノ方ハ成ルタケソレヲ避ケテヤル考ヲ以テ、餘程困難ナ解釋デアルトハ見テ居ラレマスモノ、マダ確定シテ居リマセヌ、ソコデ衆議院ノ方デハ、出來ルナラバ法律ノ解釋ニ依ッテ、之ヲ四枚ニ分割シテ賣出スコトガ出來ルト云フ解釋ヲ取ッテ、ソレヲ厲行スルコトノ強イ希望ガ出テ居リマス、私トシテ穩カニ考ヘマスルト、若シ左様イタスコトガ宜シイトスレバ無理ニ法文ヲ解釋セズニ、矢張り法律ノ上ニ明カニシテ、貴衆兩院ノ御協賛ヲ得ルコトガ穩カナ途デアアルマイカト實ハ考ヘテ居ルノデアリマス、幸ニ今年ノ案ガ通リマシテ實行シタ其實蹟ニ依リマシテ、風教ト兩立ガ出來マスレバ、或ハ來年更ニ其點ヲ御協賛ヲ得ル爲ニ、或ハ法律ヲ改正シテ明カニシテ置クコトガ穩當デアアルマイカト思フ、併シ司法省トノ間ノ話合ガ出來マ

シテ、法律ノ範圍内デ出來テ、法ニ妨ゲナイトスレバ、或ハソレヲ實行シタイト云フ考ヲ持ッテ居リマス

○政府委員(戸田保忠君) 制限ノ超過金ヲ拂戻シマスル方法ト致シマシテハ、全然的中者ノナイ場合ハ、全部拂戻スコトニシタイト思ッテ居リマス、是ハ競馬法施行以來、實例ガホンノ二三回カ三四回シカアリマセヌノデ、極ク稀ナ場合デアリマス、ソレデ普通ナ場合、即チ制限ノ十倍ニ達シマシタ場合ニ、即チ二十圓ノ馬券ヲ買ヒマシテ二百圓迄ノ拂戻ガアッタ場合ノ餘リヲ、今マデ俱樂部ガ取ッテ居リマシタ場合ニ付キマシテハ、矢張り今大臣ノ御話ガアッタヤウニ、原則トシテ拂戻スコトニシタイトハ存ジテ居リマス、是ハ或ハ實際ノ運用ノ上カラハ、先ヅ半分俱樂部ニ取ラセルト云フコトモ一ツノ方法ト思フノデゴザイマス、是ハ實ハ省令ヲ作りマス際ニ、モウ一層研究シテ決メタイト存ジテ居リマス、全部ヲ拂戻スコトニ致シマシテモ、少クトモ斯ウ云フ問題ガ殘リマス、拂戻ヲ致シマス時ニハ端數ガ出來マスノデ、何圓何十錢ト云フ風ニナリマス、此端數ハ總テ俱樂部ニ取ラセルヤウニ決メタイト思ッテ居リマス、端數ノ點デ非常ニ計算ノ面倒モゴザイマス、ソレデ相當

數ガ多い場合ニハ、端數ノ計算ニ依リマシテノ取得權モ、場合ニ依ッテハ相當ノ額ニ上ポリ得ルコトモ有リ得ル、少クモ端數ニ付キマシテハ、俱樂部ノ取得ニサセテ宜イノデヤナイカト考ヘテ居リマス、根本ノ方ノ金ノ問題ニナリマス、先程申上ゲマシタヤウニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○委員長(伯爵黒木三次君) 立花君ドウデスカ、宜シウゴザイマス……デハ他ニ御質疑ノ……

○子爵立花種忠君 是デ質疑ヲ御打切りニナルノデスカ

○委員長(伯爵黒木三次君) イヤ、マダ……

○子爵立花種忠君 私ハモウ少シ後ニ御許シ願ヒタイ、モウ皆サンガ無イト云フコトナラバ致シマスケレドモ、モウ少シ待ッテ戴キタイ

○子爵藪蔭君 只今ノ勝馬投票券ノコトニ付キマシテ、衆議院ノ希望決議モアリ、又農林大臣カラ御説明ニ依リマシテ、大體了承イタシマシタガ、全體今日吞屋ナル者ガ橫行スルト云フコトガ、如何ナル何ニ依ルカト云ヒマス、私ハ馬券ガ日本ノ經濟事情ト云フモノニ較ベテ高キニ失シテ居ルノデヤナイカト、斯様ニ考ヘルノデアリマス、無論競馬法第四條ニ依リマスレバ、其

價格ハ五圓以上二十圓以下トナッテ居リマスカラ、無論農林大臣ノ許可ヲ得マスレバ、俱樂部ニ於テモ十圓ニシ五圓ニスルコトモ出來得ルト考ヘルノデアリマスガ、色ミナ事情カラ今日最高ノ二十圓ニナッテ居ルト云フコトハ、一般ノ健全ナル觀者ヲ得ルト云フコトカラ考ヘ、又其吞屋ノ橫行ト云フコトガ、此二十圓ノ最高額ニナッテ居ルノデサウ云フ弊害ガ起ルノデヤナカラウカト、斯様ニ考ヘルノデアリマスガ、然ラバドウスレバサウ云フ犯罪者ヲ出サズニ是ガ圓滿ニヤッテ行ケルカト云フト、其價格ヲ引下ゲルヨリ外ニ方法ガ無いノデハナカラウカト思フ、又實際吞屋ノ行為ヲ罰スルト云フコトモ、チョット不可能デハナカラウカト思ヒマス、又ソレヲ嚴格ニ取締ヲ致サウト思ヘバ、現在ノ競馬ノ隆盛ハ望メナイノデハナカラウカ、斯様ニモ考ヘテ居ルノデアリマス、大體只今ノ御説明デ分ッテ居リマスガ、サウ致シマスレバ結局二十圓ト云フノハ何處マデモ二十圓デアッテ、唯此中ノ二十圓券ヲ四枚ナリニ分ケルト云フコトニ止マルノデアリマスカラ、ドウモ弊害ガ止ムト云フコトニハ行カヌト思ヒマス、其點ダケヲ申上ゲテ置キマスガ、尙ホ序デニ只今此餘剩金ヲ返スト云フコトハ誠ニ結構ナコ

トト思ヒマスルガ、此外ニ例ノ兄弟馬ノ配當、是ハ剩餘金ノ問題ト共ニ、現在ノ競馬界ニ於テ甚ダ不合理ナコトト考ヘルノデアリマスガ、此點ニ關シマシテハ政府ハ如何ナル御考ヲ持ッテ居リマスカ、チョット其點ヲ同ヒタイト思ヒマス

○國務大臣(町田忠治君) 只今ノ御尋ハ實際論トシテ至極御尤ト拜承イタシマスノデアリマス、衆議院ノ委員會ニ於キマシテモ、相當其點ガ論議サレマシタ主ナル一ツデアリマス、私共モ所謂吞屋ナルモノガ殆ド賭博類似……類似以上ノ賭博ト申シテモ宜シイ程ノ弊害ガアッテ、之ガ爲ニ一般ノ馬券ヲ買フ者ハ其方ニ吸取ラレテ居ル事情ヲ相當詳シク聽イテ居リマスガ、弊害ノ割ニ少イ關西……殊ニ桃山アタリガ盛ンデ收入ノ多イノハ大阪ヲ中心トシマシタ所謂「ファン」ナルモノノ種類モ少シ違フカモ知レマセヌガ、マダ吞屋ナルモノノ弊害ガ餘リ浸潤シテ居ラナイ爲ニ、東京橫濱アタリカラ見レバ、桃山ノ方ノ收入ガ多イ、故ニ大體ニ於キマシテ、吞屋ナルモノノ弊害竝ニ之ニ依ッテ競馬ノ收入ガ少イト云フコトハ、明カナ事實ト思ヒマス、御話ノ通り唯嚴罰ニ依ッテノミ是ガ行ケルカ否ヤハ、相當考慮シナケレバナラス、内務當局ハ之ヲ作リマスニ付

キマシテ、今後十分取締ッテ、其弊害ヲ出來ルダケ之ヲ少クシ、全滅スル覺悟ヲ以テ之ニ當ルト云フ當初ノ申合セモアリマシタノデアリマスガ、吞屋ナルモノノ弊害ニ較ベマス、之ヲ二十圓券ヲ四枚ニ割ッテ多數ノ人ヲ引付ケルコトニ、多少御懸念ノアル方ガアルトシテモ、此儘ニシテ吞屋ノ橫行ニ委シテ居ルコトニ比較スレバ、其弊害ハ比較的ニ少イ、故ニ努メテ法律ノ解釋ニ依ッテ出來マスナラバ、出來ルダケ速カニ之ヲ四枚ニ分割シテ行ク方ニ進ミタイ、大體ニ於テ衆議院ノ意嚮ハ全會一致デ希望條件ヲ附ケマシタガ、衆議院ノ意嚮ハ略、察シ得テ居リマス、ドウゾ貴族院ニ於カレマシテモ、相成ルベクハ、其邊ニ付キマスル委員ノ方方ノ御意嚮ヲ大體承ルコトヲ得マスレバ、私共法律ノ解釋上カラ行ケルトシテ、實行ヲ促スコトニ都合ガ宜イコトト思ヒマスカラ、只今ノヤウナ御意見ハ出來ルダケ承ッテ置キタイ

○男爵鍋島直明君 今數子爵ノ御話ガアリマシタガ、ソレニ連繫シテ御尋シタイト思ヒマス、複勝式ノ併用ト云フコトハ、是ハ大イニ考究スベキコトドラウト思ヒマスガ、今御話ニナッタ通りニ、一枚二十圓ト云フ、ソレヲ五圓トカ十圓トカ二十圓トカ云フヤ

ウナ工合ニ、三種ニデモ分ケテヤルト云フヤウナ御考ハナイモノデゴザイマスカ、政府ノ御意嚮ヲチョット伺ヒマス

○政府委員(戸田保忠君) 三種類ニ致シマスコトハ此改正法デアリマシテモ、現行法デアリマシテモ、出來マス譯デアリマス、各一枚ノ範圍内ニ於テハ、二十圓モ發行シ十圓モ發行シ五圓モ發行スルコトハ、法律ノ範圍内デハ出來ルコトデアリマス

○子爵藪篤磨君 只今ノ兄弟馬ノ配當ノコトニ付テチョット伺ヒタイノデス、其外ニ今回六日ヲ二日延長サレマシテ八日間ト云フコトニサレマシタ、是ハドウモ私却ッテ弊害ガ多イノデヤナカラウカト考ヘテ居ル、現ニ昭和四年ニ四回ヲ六回ニ改メラレマシタ節ニモ、福島俱樂部アタリハ餘程困難サレタト云フコトヲ聽イテ居リマス、其外馬ガ各俱樂部ニ配付サレマス關係上、ドウモ片方ニ偏ッテ、或ル俱樂部ニハ非常ニ多クナル、又或ル俱樂部ニハ割合ニ少イ、甚ダ競馬ヲ見ル者ノ上カラ申シマス、無味乾燥ナ番組ガ現ハレテ來ルノハ、誠ニ如何ナモノカト考ヘマス、ノミナラス馬ヲ傷メ、却ッテ……何ト申シマスカ、騎手ノ作戰上カラ、勝ツベキ時モ其場合勝タズシテヤルト云フコトカラ、一般ノ觀者ニモ幾分カ損害ヲ

與ヘルト云フコトガ出テ來ルト考ヘマス、種々ナ點カラ考ヘマシテ、ドウモ是ハ日數ノ少イ方ガ宜クハナイカ、斯様ニ考ヘマシガ、政府ノ御所見ハ如何デアリマスカ

○國務大臣(町田忠治君) 私モ甚ダ不案内デアリマスガ、大體提案ヲ致シマスル前ニ研究イタシタノデアリマス、從來モ相當盛ニ行ハレテ居ル二三ノ公認競馬デハ、所謂特殊競争ト申シマスカ、其方ノ爲ニハ六日デハ足りナイト云フ希望モアリマシタ、同時ニ御話ノ通り福島アタリデハ六日出來ズニ五日デ止シタト云フコトニナッテ居リマス、衆議院ニ於キマシテモ此點ハ相當論議サレタノデアリマシタガ、衆議院ノ事情ヲ申述ベルト、之ヲ必シモ八日ヤルト云フ意味デナイカラ、六日デモ宜シイ、特殊競馬ノ爲ニハ日數ガ六日デハ足りナイト云フコトヲ、統計ノ上カラモ説明ヲ政府委員カラ致シテ居、タノデアリマス、殊ニ衆議院ニ於キマシテモ、之ヲ八日トシテ、出來ルナラバ土曜日曜ト續ケタノヲ四回、一競馬毎ニハ日ヤルト云フヤウナ形ニスルト、所謂馬事思想普及ト云フ點カラ至極宜カラウト云フヤウナ意見モアリマシテ、大體ハ競馬俱樂部ノ任意デヤルコトデアリマスガ、政府ノ方ニ於キマシテハ此八日ヲ右ノヤウニ、土

曜日曜ヲ利用シテ行フト云フ餘地モ與ヘテアル積リデアリマシテ、私トシテハ實際ドチラガ本當ニ宜イカマダ十分……唯範圍ヲ最大限ヲ決メテ置キマシテ、其以上ニ於テハ各競馬各、宜シキニ依ッテ決メタラ宜カラウト云フ位ノ大體ノ考デ提案ヲ致シタノデアリマス

○子爵西尾忠方君 今ノニ關聯シマシテチヨット御伺シタイ、此日數ノ増加ニ付テ御意見の御質問ガゴザイマシタケレドモガ、此増加ノ根據デゴザイマスネ、何故ニ今日二日ヲ延バサナケレバナラヌカト云フ點ニ付テ、モウ少シ具體的ニ御説明ヲ願ヒタイ

○政府委員(戸田保忠君) 只今ノ西尾サンカラノ御尋ニ御答イタシマス前ニ、藪子爵カラ御尋ノアリマシタ兄弟馬ノコトニ付テ一言申上ゲマス、兄弟馬ノ方ノ關係ハ是ハ法律デアリマセヌデ、省令ノ範圍内デ出來ルコトデアリマス、是ハ從來私ノ方ト致シマシテモ、何等カ兄弟馬ノ制度ノ方ニ付テ變更ヲ加ヘル必要ヲ感じテ居リマシテ、此法律ノ改正等ハ別問題トシテ、研究中デゴザイマシテ、此際何レ法律ノ改正ガ兩院ヲ通過イタシマスレバ、省令モ改正イタサナケレバナリマセヌデ、其時ニ矢張り兄弟馬ニ付テモ相當考究ヲ要スルト存ジテ居リ

マス、ソレカラ只今御尋ノアリマシタ競馬回數ノ日數増加ノ根據デゴザイマスガ、第一ハ多分參考資料ヲ差上ゲテゴザイマスと思ヒマスガ、現況カラ申上ゲマシテ日數ヲ増加スル必要ガアルコトガ第一デゴザイマス、ソレハ昭和四年ト昭和五年トヲ比較イタシマスルト、競走馬ノ數ヲ登錄シタ總數ニ於テ二百三十二頭増加イタシテ居リマス、サウシテ我國ノ競馬場ノ設備ハ同時ニ十頭以上ノ馬ヲ走ラセルコトハ困難デアリマスルノデ、二十頭以上ニナリマス際ニハ其競走ヲ二回ニ分ケマシテ、甲乙ト分ケマシテ二回ニ競走セシメルコトニナッテ居ルノデアリマス、ソレデ全國ノ一日平均ノ競走回數ヲ申上グレバ、昭和四年ニハ十一回・六デアリマシタモノガ、昭和五年ニハ十二回・二ニナッテ居リマス、尙只今申上ゲマシタノハ昭和五年ノ狀況ト四年ノ狀況デゴザイマスガ、ソレヨリ以前ハ勿論是ヨリ少カッタノデゴザイマス、尙此度昭和六年ノ春ノ狀況ヲ見マスト、マダ全部ニ付テノ準備ハ各俱樂部ニ於テ出來テ居リマセヌ爲ニ、全部ノ狀況ハ分リマセヌガ、競馬ノ近ヅイテ居リマス五ツノ俱樂部ノ報告ニ依リマシタダケデモ、六年ノ春ノ登錄馬數ハ五年ノ春ト

比較イタシマスレバ、五百頭以上増加イタシテ居リマス、五年ノ秋ト比較イタシマシテモ、二百頭以上五俱樂部ダケデモ増加イタシテ居ルヤウナ狀況デゴザイマシテ、昭和五年ノ登錄馬數ハ約二千頭弱デゴザイマスルガ、昭和六年ニ於キマシテハ、此春ノ狀況デハ既ニ二千二百八十五頭、是ハ全部デナク一部分ノ五俱樂部ダケノヲ加ヘテサウナッテ居ルト云フヤウナ狀況デアアルノデアリマス、尙ホ昭和五年ノ秋ノ狀況カラ申上ゲマスレバ、京都ノ競馬俱樂部及小倉ノ競馬俱樂部デハ、先程申上ゲマシタヤウニ、或ル一競馬出走ノ頭數ガ多イ爲ニ、甲乙ニ分ケマシタ關係上、一日ニ原則トシテ十一回ノ競走番組ヲ作、タニモ拘リマセズ、十五回、十六回ニ及ンダコトガゴザイマス、秋ノ狀況デハ京都ハ第一日ガ十六回、第二日ガ十四回、第三日ガ十五回、第四日ガ十六回、第五日ガ十四回、第六日ハ十五回致シテ居リマス、小倉モ略、同様デゴザイマス、サウ云フヤウナ狀況デアリマスノデ、現在或ル俱樂部ニ於キマシテハ、六日デハ日沒マデ馬ヲ走ラセナクチャナラスト云フヤウナ狀況ナノデアリマスノデ、是ハ競馬ヲ施行イタシテ行キマスル上カラハ、十五六回ト云フヤウナ競走ヲ一日デ行フトハ面白

クナイカラ、是ハ日數ヲ増加スル外ニ是ダケノ馬ニ疾走ノ機會ヲ與ヘルコトハ出來ナイ譯デゴザイマス、現ニ昨日カラ中山ノ春季ノ競馬ガ始マリマシタノデアリマスガ、昨日ハ中山競馬ノ第一日デアリマシタガ、其報告ヲ昨日參リマシタ監督官カラ聽キマス、十一回ノ競馬ノ中デ矢張り甲乙ニ、二十頭以上ニナッタ爲ニ、分レマシタノガ二競走デゴザイマシテ、昨日現ニ十三回行ナッテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、出馬登錄及ビ實際ノ出走馬數ハ、昨年ニ比シテ此春季ハ著シク中山ニ於テモ増加シテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、實狀ハ只今申上ゲマシタ現況デゴザイマス、ソレカラ昨日モ御話ノアリマシタヤウニ、併シ日數ヲ増加イタシマシタ場合ニ、或ハ馬ヲ傷メル虞ハナイカト云フ御懸念モ數子爵カラ御質問デゴザイマシタガ、是ハ今日ヤッテ居リマスル六日競馬ノ番組等ニ付キマシテハ、改正法ニ依リマシテ八日ト致シマシ場合ハ、餘程改善ヲ行ヒタイ意思ヲ持ッテ居リマス次第デゴザイマス、今マデノヤウナ流儀デ八日ト致シマスコトハ、色々一方ニ於テ弊害ヲ醸ス關係カラ、出走馬ニ付テ出走ノ機會ヲ與ヘルト同時ニ、競馬俱樂部ノ番組編成ニ付テハ、餘程考慮ヲ要スルト存ジマス、サウ

シテ又一般的ニ考慮ヲ要スル外ニ各俱樂部毎ニ其經濟狀況、其他ノ狀況ヲ餘程考慮スル必要ガゴザイマスノデ、以前ノ四日競馬ヲ六日競馬ニ致シマシタ際ハ、各俱樂部ニ臨ムニ總テ一律ニ參リマシタケレドモ、此度ノ八日ニ致シマスニ付テハ、一律主義デナク、實際ニ適應シタ番組編成方ニ付テ、十分考慮イタシタイト考ヘテ居リマス、只今ノハ實情カラ申上ゲマシタノデアリマシガ、其外第二ト致シマシテ、此馬政計畫ノ遂行上カラモ、競馬鍛鍊ヲ必要トスル馬ノ頭數ノ上カラ見マシテ、日數増加ノ必要ガゴザイマス次第デゴザイマス、ソレハ、競馬鍛鍊ヲ必要ト致シマスル馬ノ頭數約三千頭デゴザイマス、現在競馬ニ出走イタシテ居リマス馬ノ頭數約二千頭デゴザイマス、現在約二千頭デゴザイマスルガ、先程申上ゲマシタヤウニ漸次實際ノ出走馬數カラ言ヒマシテモ、先程申上ゲマシタヤウニ、一方ニ増加スル傾向ニアルノデアリマスカラ、能力鍛鍊ヲ必要トスル理想的ノ馬ノ數カラ申上ゲマスレバ、約千頭ノ開キガゴザイマス次第デアリマス、其一千頭ノ開キノアリマス馬ヲ出馬セシムルニハ、矢張り日數増加ニ依ルカ競馬場ノ數ヲ増加スル外ナイ次第デゴザイマスガ、競馬場ヲ増加スルト云

フコトハ、此際適當デナイト認メマシテ、日數増加ニ依ルコトト致シタ次第デアリマス、併シ日數増加ハ先程申上ゲマシタヤウニ、一方ニ於テ相當研究ヲ要スル事項モゴザイマスノデ、之ヲ各俱樂部ニ一律ニ増加ヲシナイデ、八日以内ニ於テ適當ニ此情狀ニ應ジテ實際ニ施行ヲ致シタイト云フ考デ居ル次第デゴザイマス、尙此ノ三千頭ヲ要シマスル基礎デゴザイマスルガ、是ハ少シ長クナリマスガ、一應申上ゲタイト思フノデアリマス、是ハ矢張り參考書トシテ差上ゲテアルト存ジマスガ、此馬政第二期計畫ニ依リマス、血種別ノ種牡馬ノ所有數ニ基キマシテ、國有種牡馬ハ一千五百頭、民有種牡馬ハ四千五百頭ヲ理想トシテ居ル譯デアリマシテ、其百分率ハ輕種ニ於テ十五「パーセント」中間種ニ於テ八十「パーセント」、重種ニ於テ五「パーセント」國有及ビ民有ニ於テ持チタイ、左様ニナッテ居リマス、即チ第二期ノ計畫ニ於キマシテ種牡馬ノ所要ノ總數ハ六千頭ヲ目標ト致シテ居リマス、其中ノ千五百頭ハ國有ノ種牡馬ヲ以テ之ニ充テマシテ、残りノ四千五百頭ハ民有ノ種牡馬ヲ以テ之ニ充テルコトニナッテ居リマスガ、國防上竝ニ産業上ノ要求ニ依リマシテ、全國ノ馬百五十萬頭ノ血種ハ、只

今申上ゲマシタヤウナ種別ニナッテ居リマスガ、其改良蕃殖ニ供用致シマス所ノ種牡馬ノ血種ニ付キマシテモ、先程申上ゲマシタヤウニ、輕種ガ十五「パーセント」、中間種ガ八十「パーセント」重種五「パーセント」ト云フ率ニ依ッテ充實スル方針ニナッテ居ルノデアリマス、從ッテ輕種ニ屬シマス種牡馬ハ、國有民有ヲ併セマスト九百頭デアリマス、中間種ニ屬スルモノハ國有民有ヲ併セマスト計四千八百頭デアリマス、重種ニ屬シマスモノハ國有民有ヲ併セマスト三百頭デアリマスガ、此中競馬鍛鍊ヲ要スルモノハ、民有ノ種牡馬トナルベキモノデアリマス、ソレデ民有ニ屬シマス種牡馬トナリマスモノ又ハ其種牡馬ノ母トナルベキ牝馬デアリマス、或ハ輕種系ノ軍用乘馬ノ母トナルベキ牝馬デアリマス、是等ノモノガ公認競馬ニ於テ競馬ノ能力鍛鍊ヲ要スルモノデアリマス、更ニ具體的ニ申上ゲマスレバ、第一ニ駈步競走ト障礙競走ニ出サナクチャナリマセヌモノハ、輕種ニ屬スル民有牡馬ハ年々新タニ七十頭ノ補充ヲ要スルノデゴザイマス、併シ此輕種牡馬ハ特ニ多數ノ候補馬カラ之ヲ嚴格ニ選定イタサナケレバナラヌノデアリマスカラ、七十頭ノ種牡馬ノ補充ヲ年々致シマス爲ニハ、是ハ餘程少ナク

見テ居ルノデアリマスガ、少クトモ其五倍ノ馬ガナケレバ、七十頭ノ良イ種牡馬ヲ得ルコトハ出来マセヌノデ、約三百五十頭ノ此種ノ系統ノ牡馬ニ對シテ、競馬鍛鍊ヲ必要トスル次第デゴザイマス、ソレカラ是等ノ牡馬ノ三百五十頭ヲ四歳ニ於テ競馬ニ於テ出シマスノハ、是ハ競馬ニ出シマスノニハ、餘リ小サイノデハ却テ馬ガ困リマスカラ、四歳カラ競走サセルコトニナッテ居リマス、其際ニ四歳ニ於テ競走致シマス、當歳ニ二歳三歳等ニ於テ相當多數ノ減耗率ガゴザイマスカラ、實際國ノ種馬牧場ニ於テヤッテ居リマス實蹟カラ見マス、其約十二倍ニ相當スル約四千二百頭ノ種牡馬生産用ノ蕃殖牡馬ガ……三百五十ノ牡馬ヲ得マス爲ニハ、只今中上ゲマシタヤウナ數字ノ種牡馬生産用蕃殖牡馬ヲ必要トスルノデゴザイマス、是等ノ牡馬ヲ常時維持シマス爲ニハ、年々其約一割ニ相當イタシマス所ノ約四百二十頭ノ牡馬ヲ競馬鍛鍊ヲシテ行カナクテハナラスノデゴザイマス、又輕種系ノ軍用乘馬ノ母トナルベキ牝馬モ、矢張り優秀ナルモノハ公認競馬ニ出走セシメテ能力鍛鍊ヲスル必要ガゴザイマス、從來ノ軍馬ノ購買ノ實狀ニ徴シマスルト……、軍用乘馬デアリマス、是ハ幼駒及ビ牡馬ヲ通ジテ平均	約二千三百餘頭デアリマスガ、是等ノ軍用乘馬中ニハ、少クトモ年々約千頭位ノ輕種系ニ屬スル馬ヲ必要トスルヤウナ狀況デアリマス、是等ノ馬ガ幼駒、二歳購買、牡馬四歳購買、是等ヲ通ジマシテ平均三歳ニ於テ購買セラレルモノト致シマスレバ、前ノ場合ト同様ニ、當歳ニ二歳ニ於キマシテハ相當多數ノ減耗率ヲ見込マナケレバナリマセヌ、三歳ニ於テ軍用牡馬約一千頭ヲ得マス爲ニハ、此約十倍ニ相當スル約一万頭ノ軍用乘馬ノ生産用蕃殖牝馬ヲ要スル譯デゴザイマス、從テ常ニ是等ノ牝馬ヲ保持セント致シマス爲ニハ、年々其約一割ニ相當スル約千頭ノ牝馬ヲ競馬鍛鍊ノ上補充スル必要ガアルノデゴザイマス、從テ輕種系ニ屬スルモノハ種牡馬トナルベキ牝馬ガ約三百五十頭、其種牡馬ノ母トナルベキ牝馬ガ約四百二十頭、軍用乘馬ノ母トナルベキ牝馬約一千頭、合計約一千七百七十頭ニ對シマシテ、競馬鍛鍊ヲ必要トスルノデアリマス、ソレカラ更ニ第二ニ速歩競走ニ於テハ、種牡馬トナルベキ中間種ニ屬スル牡馬及ビ中間種牡馬ノ母トナルベキ牝馬ニ對シテ競馬鍛鍊ヲ行フノデゴザイマスガ、此馬政第二期計畫ニ依ル民有種牡馬ノ中間種ニ屬シマスモノハ、三千六百頭ヲ理想ト致シテ居	リマスカラ、之ヲ十年更新ト致シマスレバ、年々其約一割ニ相當スル三百六十頭ノ馬ヲ新ニ補充スル必要ガアルノデアリマス、併ナガラ中間種ノ種牡馬ノ中ニハ、多數ノ小格晩馬型ノモノヲ含シテ居リマスカラ、速歩ノ競走ニ依リマシテ、特ニ能力ノ檢定ヲ、公認競馬デ必要ト致シマスモノハ、只今申シマシタ、數字ノ約三分ノ一デ足ルノデゴザイマス、其約三分ノ一ニ相當スル約百二十頭ヲ目標トスルコトガ必要ト思ハレルノデアリマシテ、其約百二十頭ヲ得ヤウトスル爲ニハ、少クトモ三倍ニ相當シタル約三百六十頭ノ馬ヲ競馬鍛鍊ヲスル必要ガアルノデゴザイマス、次ニ是等ノ牡馬ヲ四歳ニ於テ約三百六十頭ヲ得マス爲ニハ、輕種ノ場合ト同様ニ、其約十二倍ニ相當スル約四千三百二十頭ノ種牡馬生産用蕃殖牝馬ヲ必要ト致シマスカラ、之ヲ十年更新ト致シマスレバ、年々其約一割ニ相當スル約四百三十二頭ノ牝馬ニ對シテ、競馬鍛鍊ヲ爲シテ置キ、之ヲ補充スル必要ガアルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、種牡馬トナルベキ中間種ニ屬シテ居リマス牡馬ヲ合シマスレバ、約七百九十二頭ノ馬ヲ速歩競走ニ依ッテ能力鍛鍊檢査ヲ必要トスルノデゴザイマス、只今中上ゲマシタ所ヲ要約イタシマス、	馬ノ改良上競馬鍛鍊ヲ必要トスル馬數ハ、駈歩競走及ビ障礙競走ニ於キマシテハ約千七百七十頭、速歩競走ニ於テ約七百九十二頭、合計約二千五百六十二頭トナルノデゴザイマス、併ナガラ競馬ノ狀況ヲ見マシテ、ソレカラ又種牡馬ノ生産ノ狀況ヲ見マシテ、是等ノ馬ニ全部競馬ニ出走ノ機會ヲ與ヘマスコトハ、今日ノ實情ト致シマシテ相當困難ヲ伴ヒマスカラ、之ヲ事情ノ許ス範圍内ニ於テ見タノデゴザイマスガ、輕種系ノ種牡馬ノ候補馬ノ全部、是ハ約三百五十頭デゴザイマスガ、是ハ全部競馬ニ依ッテ能力鍛鍊ヲスル必要ガアリマス、是ガ母トナルベキ蕃殖牝馬ノ候補馬ハ約五割、即チ二百十頭、ソレカラ輕種系軍用乘馬生産用蕃殖牝馬ノ候補馬ノ約二割、約二百頭ト見マシテ、計七百六十頭ヲ駈歩競走及ビ障礙競走ニ出走セシムルコトニ致シマシテ、又中間種種牡馬ノ候補馬ノ約三割、即チ約百八頭デアリマス、ソレカラ其母トナルベキ蕃殖牝馬ノ候補馬ノ約三割即チ約百三十頭デゴザイマス、計二百三十八頭ヲ速歩競走ニ出走セシメタイノデアリマス、是等ヲ合計イタシマスト全部約九百九十八頭トナリマス、九百九十八頭ハ即チ更ニ「ラウンドナンバー」デ云ヒマスレバ、一千頭デゴザイ
---	---	---	--

マス、此一千頭ノ馬ヲ公認競馬ニ出シマス

ナリマシタ

ノニ、年々是等ハ補充ヲ要スル種牡馬若ク

○子爵立花種忠君 私ハ競馬ニ付テハ殆ド

ハ種牝馬ト云フコトカラ割出シマシタ數字

何モ知ラナイノデゴザイマスガ、他ノ方面

デアリマスノデ、年々今ノヤウナ馬ノ補充

カラ伺フテ見タイト思ヒマス、但シ參考書類

ヲ要スルノデ、ソレヲ競馬ニ於テ鍛鍊スル

ハ本日戴イタ譯デ、マダ十分ニ見ル邊ヲ持ッ

ノデゴザイマシテ、公認競馬ニ於キマシテ

テ居リマセヌカラ、甚ダ杜撰ナ御質問ヲ致

假ニ四歳カラ八歳マデ……實際四歳カラ八

コトヲ自カラ恐レテ居リマスガ、豫算委員

歳位マデ出ルノモゴザイマスガ、小サク致

會ノ方ノ關係モアリマスノデ、簡單ニ二三、

シマシテ、四歳、五歳、六歳、少クトモ此三

寧ロ陸軍當局ニ伺ヒタイト存ジマス、第一

簡年位ハ競馬ニ出走セシメルコトト致シマ

ハ競馬法施行ノ馬産ニ及ボシタル效果ト云

スレバ、年々約千頭デアリマスカラ、年々

フコトニ付テ伺ヒタイト思ヒマシタルケレド

ノガダブリマシテ、一年ニ三千頭トナル次

モ、此處ニ參考書モ頂戴シテ居リマスシ、

第デゴザイマス、サウ云フヤウナ基礎カラ、

マダ内容モ十分見テ居リマセヌカラ、是ハ

馬政計畫ノ上カラ見マシテ、競馬ニ出走セ

後廻シニシテ置キマシテ、第一點ハ競馬法

シメル馬ハ、理想數字トシテハ、三千頭少

ノ施行ガ、此帝國ノ軍馬ニ及ボシタル成績

クトモゴザイマス次第デゴザイマス

如何ト云フコトヲ伺ヒマス

○委員長(伯爵黒木三次君) 如何デゴザイ

○政府委員(小磯國昭君) 競馬法施行ニ伴

マセウカ、時モ丁度十二時ニナリマシタカ

ヒマス種付馬ガ軍隊ニ支給ヲサレマシタノ

ラ、一時半ニ再開スルコトニ致シマシテ、

ハ、最近即チ昭和三年ノ秋カラデアリマス

暫時休憩イタシマス

ノデ、之ニ依ッテ直チニ競馬法施行ニ依ル軍

午後零時二分休憩

馬ノ結果、即チ軍馬ニ及ボシタ影響ト云フ

午後一時三十九分開會

モノヲ直チニ即斷スル譯ニハ參リマセヌ

○委員長(伯爵黒木三次君) デハ是ヨリ午

ガ、大正十二年ト昭和四年ニ於キマス所ノ

前ニ引續イテ開會イタシマス、チヨット申上

馬ノ素質ヲ比較シテ見マスルノニ、其體重

ゲマスガ農林大臣ハ今御出デニナルサウデ

ニ於テモ、身體ノ高サニ於キマシテモ、多

少ヅツ増加ヲシテ居リマス、詳シク申上ゲ

マスレバ、其體重ニ於テ、大正十二年ニ四百

三十九「キロ」餘ノモノガ、昭和四年ニ於テ

四百六十六「キロ」八十一ニ増加ヲシテ居リ

マス、身體ノ高サニ於キマシテ、大正十二

年ニ「メートル」四十八ノモノガ、昭和四

年ニ「メートル」五十六ニ増加ヲ致シテ

居リマス、尙ホ軍馬補充部ニ於キマスル育

成馬、此馬ノ高サ、ソレカラ體重、胸圍、

ソレカラ管圍、是等ニ於テモ相當總テ増加ヲ

見テ居ルヤウデアリマス、固ヨリ是等ノ結

果ガ悉ク競馬法施行ノ影響デアルト即斷ス

ルコトニハ參ラスト思ヒマスケレドモ、何

レニ致シマシテモ、競馬法施行以來、漸次

馬ノ質ハ改善サレツツアルト云フコトハ明

瞭デアリマス、唯遺憾ナガラ其數ニ於キ

マシテハ、増加ヲシテ居ルト申上ゲ兼ネル

ノデアリマス、概要競馬法施行ニ依リマス

ル所ノ軍馬ニ及ボス影響ハ、今申上ゲマス

通りデゴザイマス

〔子爵數篤磨君發言ノ許可ヲ求ム〕

○委員長(伯爵黒木三次君) チヨット御待

チヲ願ヒマス

○子爵立花種忠君 私ガ御質問イタスコト

ニ付キマシテ、他ノ委員カラ、牽連シタコ

差支アリマセヌ

○委員長(伯爵黒木三次君) 承知イタシマ

シタ

○子爵立花種忠君 只今數子爵カラ出タヤ

ウデアリマスガ、御質疑ガ若シ之ニ牽連シ

テ居ルナラバ、寧ロ此場合ニ願ッタ方ガ宜イ

ト思ヒマス

○子爵數篤磨君 私ハ其以外ノコトデス

○委員長(伯爵黒木三次君) 以外ダサウデ

ゴザイマスカラ……

○子爵立花種忠君 ソレカラ第二點、内地

ニ於キマシテハ十分ニ、軍馬ノミナラズ、

總テノ馬ヲ十分拵ヘルト云フコトハ不可能

ダラウト、素人考ニシテ居リマス、然ラバ

自給自足ノ途ヲ立テルニハ、何處ヘ持ッテ

行ッたら宜カラウカト云フコトヲ考ヘマス

ト、マア朝鮮或ハ樺太或ハ滿蒙ノ地方ト云

フコトニナリハシナイカト思ヒマスガ、若

モ植民地ノ方面ガ馬産ノ爲ニ、殊ニ軍用馬

ノ育成ノ上ニ非常ニ良イ所ガアルト云フコ

トナラバ、ソレヲ御示シヲ願ヒタイ、且ツ

各植民地或ハ臺灣モ入ルカモ知レマセヌ

ガ、各植民地ニ於ケル所ノ大體ノ馬産ニ付

テノ狀況等ヲ、簡單デ宜シウゴザイマスカ

ラ、御説明ヲ願ヒタイ、私ガ考ヘマスノニ

第一線防禦線デアリマスカラ、此第一線ノ舞臺ニ立ツ爲ニハ、餘程軍用馬ノ準備ガナケレバ機先ヲ制スルコトガ難イデハナイカト思ヒマス、デ、現在ノ狀況ヲ見ルト、現在ト云フヨリモ、寧ろ過去カモ知レマセヌガ、内地カラ一々馬ヲ送テ居ル、朝鮮ニ於ケル舞臺デ要ル時ニ、内地カラ馬ヲ送ラナケレバナラヌ狀況ニ在ルヤウニ私ハ思ヒマス、是デハ萬一ノ場合ニ於テ、一步立ち後レニナリハシナイカト云フコトヲ考ヘマスノデ、特ニ各植民地ノ中デモ朝鮮ニ付テノ、御施設或ハ御考慮ノ有ル所ヲ特ニ伺ヒタイト思ヒマス

○政府委員(小磯國昭君) 先以テ軍事上必要ナル馬ノ數字ヲ申上ゲマシテ、然ル後ニ御質問ノ朝鮮其他ノ狀況ニ付テ申上ゲタイト思ヒマス、數字ノ概數ニ付キマシテハ、既ニ御承知ト考ヘマスガ、今迄調査シ得マシタ國內ノ總馬數百四十九万四千頭、此中四歳カラ十六歳ノ間ノ馬匹ガ軍用ニ適シマス、此軍用ニ適シマス馬ノ概數ガ九十二万頭デアリマス、併ナガラ其中デ軍馬ニ採用イタシマスル爲ニハ、ヨク検査ヲ致シマシテ、合格ヲシタモノヲ採用スルヨリ仕方ガゴザイマセヌ、男馬、ソレカラ選ラ拔キマシタ馬、竝ニ女馬ノ如何ニ依リマシテ、合

格率ガ皆違ヒマスルガ、平均ヲ致シマスルト云フト、九十二万頭ノ中五十九万頭ハ軍用ニ適スルヤウデアリマス、併ナガラ此中ニハ女馬トカ妊娠馬ガアリマス、其數ガ概數十二万頭ゴザイマス、從テ眞ニ軍用ニ採用シテ使ヒ得マス馬數ハ四十七万頭デアリマス、此四十七万頭ト申シマスル所ノ數字ハ、陸軍ガ開戦後一年間ニ於テ所要ト致シマス所ノ數ヲカツム充足シ得ルモノト考ヘテ居リマス、從テ詳シク申上ゲマスレバ、開戦二年度目カラ馬ノ所要數ト云フモノハ、内地產馬デハ求メラレナイト云フヤウナ計算ニナルノデアリマス、茲ニ於テカ、内地產馬以外、植民地方面ニ於ケル所ノ馬ニ著目ヲ致シマシテ、戰時必要トスル所ノ馬ノ一部ヲ植民地カラ入手スルト云フ著想ニ歸納シナケレバナラヌモノト考ヘテ居リマス、然ルニ植民地方面ニ於ケル所ノ馬ノ狀況ハ甚ダ心細キ狀態ニアリマス、詳シク申シマス、朝鮮ニ於ケル所ノ馬ノ總頭數ハ約五万八千頭デアリマス、而モ此五万八千頭ノ馬ハ御承知ノ如ク矮小微力ナル土產馬デアリマシテ、直チニ之ヲ軍用ニ利用スルト云フ所ノ目トハ甚ダ少イノデアリマス、デアリマスルガ、土地風土ニ適合シテ居ルト云フ事柄ハ疑ナイ事實デアリマスル

ノデ、之ニ適當ナル種ヲ配合イタシマシタナラバ、相當軍用ニ使用シ得ル所ノ馬ヲ生産シ得ルモノト考ヘテ居リマス、現在軍部ト致シマシテハ、朝鮮ノ雄基ニ補充部ノ支部ヲ持テ居リマシテ、極ク僅カナ種馬ヲ持テ居リマシテ、其外民間ニ於テモ種付ヲヤツテ居リマス、斯ノ如クシテ生レマシタル所ノ幼駒ハ、彼ノ地方ニ於キマスル所ノ、支那人朝鮮人ノ生活狀態ト必要トカラ結果イタシマシテ、極クマダ若イ當歳位ノ中カラ賣買ヲセラレルト云フヤウナ傾向ガアリマス結果、遂ニ若イ中ニ損廢ニ歸シマシマフト云フヤウナ傾向ガアリマスルノデ、補充部ト致シマシテハ、特別ニ若イ馬デモ購入ヲ致シマシテ、育成馬トシテ育テテ、サウシテ平戰兩時ニ於ケル補充ノ用ニ供シヤウト云フ風ニ心掛ケテ居リマスルガ、是トテモ決シテ平戰兩時ヲ通ズル所要數ヲ充足スルニ足リマセヌ、軍部ト致シマシテハ、是等ノ見地ニ基キマシテ、民間ニ於ケル朝鮮馬ノ改良増殖ト云フコトヲ熱望シテ已マナイ狀態デアリマス、樺太ニ於キマスル所ノ馬ハ僅ニ一万二千頭デアリマス、幸ヒ年々増加ノ傾向ニアリマスルカラ、益、増殖ヲ圖ルト云フ事柄ガ必要ト考ヘテ居リマス、臺灣ニ至リマシテハ、僅ニ二百八十頭、殆ド

論ズルニ足リマセヌ、關東州ニハ約八千頭居リマス、是等ノ馬モ御承知ノ支那馬デアリマス、デアリマスルガ、此支那馬ニ配合スルノニ適當ナル種馬ヲ以テ致シマシタナラバ、十分ニ晩駄馬ノ用ニハ供シ得ルモノト考ヘテ居リマス、關東州以外滿洲地帯ニ馬ノ居ルコトハ申スマデモアリマセヌ、茲ニ於テカ若シ幸ニシテ關東州竝ニ關東州外滿洲、少クモ鐵道沿線附近ニ於キマスル支那馬ニ配合スル適當ナル種牡馬ヲ以テ致シマシテ、馬ガ漸次改良ノ緒ニ就クト云フコトニナリマシタナラバ、軍部トシテ非常ニ仕合セテ感ズル所デアリマス、現在是等ノ著想ニ基キマシテ、關東州竝ニ關東州外ニ若干ノ種馬ガ居リマスルガ、其數ハ未ダ以テ軍部戰時ニ於ケル所要數ヲ十分ニ充足スルニ足ルダケノ種付ヲ爲シ得ルモノトハ考ヘテ居リマセヌ、之ヲ要スルニ植民地方面ニ於キマスル所ノ馬産ハ多少ツツ發達ハシツツアルト考ヘマスルガ、戰時所要數ヲ直チニ充足シ得ル程度ニ進ムノニハ、マダ前途遼遠ト考ヘテ居リマス

○男爵鍋島直明君 今立花子爵ノソレニ連結シテ質問ヲ致シタイト思ヒマス、今政府委員ノ御話ノヤウニ、朝鮮ニ五万八千頭アルト云フ御話デゴザイマスガ、是ハ其處ニ

繫養スベキ所ノ數デアリマスガ、或ハ總數デアリマスガ、ドウ云フモノデスカ

○政府委員(小磯國昭君) 總數デアリマス、尙ホ申シ加ヘマスガ、先程モ申上ゲマシタ如ク、此五万八千頭ハ此朝鮮併合以來多少増加ノ趨勢ニアリマスルガ、土產馬デアリマシテ、今後軍部ノ爲ニ使用スベク改良ヲスルト云フ事柄ハ、ナカ／＼ムツカシイ狀態ニアルト考ヘテ居リマス

○男爵鍋島直明君 農林省ノ方ニ一ツ御伺ヒシタイト思ヒマスルガ、今立花子爵ノ御話ノ通りニ、自給自足ト云フコトハ必要ノコトデ、是ハ前ニ私モチョット此事ニ付テハ質問イタシマシタ、ソレガ爲ニ、有事ノ日ニ於テハ植民地其他ニ或ハ牧場ヲ作ルカ、或ハ何カ方法ヲ講ジナケレバナラスト云フコトヲ申上ゲテ置キマシタガ、朝鮮ニハ今少シ試ミテ居ラル、ト云フヤウナコトヲ承リマシタガ、其狀況ヲ一ツ詳シク御話シ願ヒタイ

○政府委員(戸田保忠君) 内地以外ノ植民地方面ニ於ケル馬ノ狀況デゴザイマスガ、關東州、滿洲方面デゴザイマス、此方面ニ付テ以前カラ陸軍デハ考ヘテ居ラル、ヤウニ私共聞イテ居リマスノデ、併ナガラ餘リ著シク發展イタシマセヌノデ、最近ニ於キ

マシテハ、内地、關東州、滿鐵、朝鮮及ビ軍部ト云フ方面、ソレカラ農林省等ニ於キマシテ相當ナル協議會ト云フヤウナモノデモ開キマシテ、ソレ／＼連絡ヲ取ツテ、馬産ニ關シテ調査ヲ進メタイト云フ、是ハ内部デゴザイマスガ、議ガゴザイマシテ、マダ實現マデニハ至ッテ居リマセヌガ、主任ノ技術官ガ集リマス程度デハ、最近ニハ昨年ノ秋集リマシタ、兩三年前カラ關東州方面並ニ軍部ノ方デモ其話ガアリマシテ、是ハ内輪ノコトニナリマスガ、農林省ニ於キマシテ、幹旋役ヲ勤メマシテ、或ル程度ノ議ガ成立チマシテ、今日デハ拓務省ガ出來マシタノデ、此内地ト植民地トノ連絡ヲ圖リマスル上ニ於キマシテハ、拓務省ガ中心ニナッテ貰フノガ一番適當デアリマス、拓務省ニ於キマシテ、關係方面ノ主任ガ集リマスト云フ程度ノコトハ、只今申上ゲマシタヤウニ、一回會議ヲ開キマシタガ、將來ハ……

尙ホ具體化イタシマセヌ爲ニ、責任ヲ持ッテハ申上ゲ兼ネマスケレドモ、相當ノ程度ノ委員會ト云フヤウナモノヲ設ケマシテ、是ハ或ハ豫算デ拓務省カラ御要求イタスヤウニナリマスルカ、或ハ豫算等ニハ關係ナク既定經費ノ範圍デ運用スルヤウニナリマスカ分リマセヌガ、朝鮮、主トシテ關東州デ

アリマスガ、滿洲方面、ソレカラ内地ニ於テハ農林省、軍部ノ方面ト連絡ヲ取ツテ、將來ノ方針ヲ定メル爲ニ、先ヅ取敢ズ各官廳ニ於ケル委員會等ヲ組織シテ、今迄ハ、露骨ニ申上ゲレバ、餘リ統一的ノ連絡ガ取レテ居リマセヌ、其コトヲ先ヅ第一著ニヤリタイト云フコトガ、政府部内デ内議ガ起ッテ居リマシテ、愈々實現スルマデニハマダ至テ居リマセヌガ、其過程ニ在ルト云フ狀況デアリマス、ソレカラ朝鮮ニ付テノ御尋デゴザイマスガ、朝鮮デハ御承知ノヤウニ馬ハ比較的少ナウゴザイマシテ、牛ガ非常ニ産業上各朝鮮ノ農家ニ使ハレテ居ル次第デアリマス、朝鮮デハ牛ヲ飼ッテ居リマス數ガ非常ニ澤山デアリマシテ、朝鮮ノ産業ノ狀態カラ言ヒマシテ、直チニ現在アリマス牛ノ如ク馬ヲ盛ナラシメルコトハ、餘程困難ダラウト存ジマス、併ナガラ今日ノ現況カラ致シマシテモ、朝鮮ノ中ニハ馬産ニ適スル土地モアリ、又其餘地モアル、例ヘバ咸鏡南北道ト云フヤウナ所ニハゴザイマスノデ、今日ノ程度ニ止マラズ相當ニ改善ガ行ハレ、又馬産ガ行ハレル餘地ハ存スルモノト存ジマス、併ナガラ非常ニ直ニ多大ナル期待ヲ持ツコトハ、朝鮮ノ農家ニ於ケル産業ノ狀態カラ申シマシテ、朝鮮ニ於ケル

牛ノ如ク、朝鮮ノ各道ノ全般ニ馬ヲ普及セシムルコトハ、實際問題トシテ餘程困難ガアリハセヌカト思ヒマス、唯々只今申上マスヤウニ、主トシテ咸鏡南北道方面ニ於キマシテハ、尙ホ相當發達ノ餘地ガアルモノト思ッテ居ル次第デアリマス

○男爵鍋島直明君 少シ今チョット聽キ間違ヒカドウカ存ジマセヌガ、朝鮮ノ北部ニアル雄基支部ノ方ニ於テハ種馬ヲ置イテ、ソコデ産馬ヲシテ居ルヤウナ風ニチョット伺ヒマシタガ、ソレハ違ッテ居ルカ知リマセヌガ、ソレハ農林省ノ方ト御交渉ニナッテオヤリニナッタコトデアリマセウカ、陸軍ノ方カラデモ、ドチラカラデモ、御答ヲ願ヒマス

○委員長(伯爵黒木三次君) 説明員ノ發言ヲ許シテ御異議アリマセヌカ
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○委員長(伯爵黒木三次君) ソレデハ説明員カラ……
○説明員(横屋潤君) 畜産局長カラ御話ガアリマシタガ、朝鮮ノ雄基支部ノ種馬ノ問題ト考ヘマスガ、此朝鮮ノ咸鏡北道ニ居リマス所ノ種牡馬ト申シマスルノハ、丁度内地ニ於キマスル十三ヶ所ノ種馬所ト同様ニ、向ウニモ種馬所ガアルノデゴザイマス、

併シ現在供用サレテ居ル所ノ馬ハ非常ニ老齡ニナツテ居ルサウデゴザイマシテ、ソレカラ雄基支部ニ御繋ギニナツテ居ル種牡馬ハ確カ三頭ト記憶シテ居リマスデスガ、是ハ清浦現在ノ大尉ガ印度ノ孟買カラ御買ヒニナツテ居ル馬ガ向ウニ繋ガレテ居ルト思ッテ居リマス、詰リ孟買……申上ゲル迄モナク「アラビヤ」「メソボタミヤ」ノ方面ノ産ノ馬ガ三頭參ッテ居ルト存ジテ居リマス、尙ホ先程御話ノ朝鮮ノ馬産ニ付テ、自分ハ參ッタコトハアリマセデスガ、從來馬政局時代、陸軍省時代ニ於キマシテモ、朝鮮竝ニ關東州ニ於キマシテハ、關東州ノ方カラ申上ゲマスト關東州、滿鐵ノ方面ノ附屬地ニ於キマシテハ、「アラブ」竝ニ「ハクニー」種ガ宜イト云フコトニナリマシテ、ソレニ付ケマシテ「アラブ」系統馬、詰リ「ギドラン」或ハ「ハクニー」ノ種牡馬ガ馬政局時代カラ極ク少數デハアリマスガ、向ウニ參ッテ居リマス、朝鮮ノ咸鏡北道種馬所ノ方面ニ於キマシテハ「アングロノルマン」種ガ主トシテ參ッテ居リマス、極ク小型ノ「アングロノルマン」デアリマス、ソレカラ朝鮮ノ産馬ニ付テ先程軍務局長カラ御話ガアリマシタガ、五万余頭ノ馬ノ中ニ三万余頭ト云フモノハ、是ハ濟州島ニアリマシテ、朝鮮本土ニ於キマ

シテハ二万余頭、極ク僅カノ數デアリマス、而モ其馬ノ馬系ハドチラノ方カラ參リマスカト云フト、現在朝鮮ニ於テハ六箇所ノ競馬場ガアリマシテ、尙ホ其外ニ二箇所、朝鮮デ公認ト申シマスノハヲカシウゴザイマスガ、二箇所アリマシテ、都合八箇所アルサウデアリマス、詰リ宮崎、鹿兒島ノ馬ガ向ウニ參ッテ居リマス、御承知ノ通り朝鮮ハ非常ニ道路ガ惡イノデアリマスガ、漸次道路ガ良クナルニ連レテ、馬ノ數モ殖エツツアリマス、尙ホ現在宮崎鹿兒島ノ九州馬以外ニ於キマシテ、在來ノ朝鮮馬ニ付テ改良ガ出來ルヤ否ヤト云フコトニ付テハ、馬政局時代ニ於テ淺川中將ガ向ウヘ參ラレマシテ視察ノ結果トシテ、朝鮮馬トシマシテハ骨量ガ非常ニ退化シマシテ、ソレヲ基礎トシテ改良シテ軍部ノ要求ニ用立テルト云フコトハ、到底見込ガナイト言ハレタ、斯ウ云フヤウナコトヲ聞キ及ンデ居リマスカラシテ、或ハ滿蒙ノ馬或ハ九州方面ノ馬ヲ一度向ウニ出シマシテ、ソレヲ基礎トシテ更ニ種馬ノ或ル種類ヲ以テ改良シテ行ッたらバ、相當ノ結果ヲ得ルダラウト、斯ウ云フ風ニ考ヘマス、簡單デアリマスガ……

○子爵西尾忠方君 只今朝鮮ノ支部ノ種馬ノコトニ付テ、サウデアルト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、恐ラク是ハ陸軍省ノ御管轄ダラウト思ヒマスガ、左様デゴザイマスカ

○政府委員(小磯國昭君) 雄基支部ノ問題ハ、是ハ陸軍省ノ關係デアリマス

○子爵西尾忠方君 ソレデハ陸軍ノ當局カラ只今農林省ノ方ノ御話ノ内容ニ付キマシテ種馬ノ供用ノ方針竝ニ其生産ノ將來ノ豫測ト云フヤウナ方面ニ付キマシテ、此機會ニ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(小磯國昭君) 雄基支部ノ概況ニ付キマシテ申上ゲマス、前段立花子爵ノ御質問ニ付キマシテ申上ゲマシタ如ク、陸軍トシマシテハ滿蒙馬ノ改良育成ト云フコトヲ必要ト考ヘマシテ、雄基支部ニ於キマシテハ、是等ノ著想カラ生産試驗ヲ實施シツ、アリマス、種馬ト致シマシテハ、只今農林當局カラ説明モアリマシタカラ、現在「アラブ」ガ二頭ソレカラ内地産ノ牡馬ガ一頭ゴザイマス、其外ニ此蕃殖牡馬トシマシテ、蒙古産ノ馬ヲ十五頭有ッテ居リマス、只今マデ種付ヲ致シマシテ出來マシタ仔馬ハ賣却ヲ致シマシタモノモゴザイマスシ、途中デ斃死イタシマシタ馬モゴザイマスガ、現在ノ試驗馬ハ明ケ四歳ガ四頭、明ケ三歳ガ三頭、明ケ二歳ガ十五頭、合計三十二頭ゴザイ

マシテ、昭和五年度ニ種付イタシマシタ蕃殖牡馬カラ十五頭生産スル見込ヲ持ッテ居リマス、生産イタシマシタ是等ノ馬ハ概シテ良好デアリマシテ、軍馬ト致シマシテ使用シ得マス見込ノ確實ナモノガ其大部分ヲ占メテ居リマス、之ヲ要シマスノニ、是等ノ既往ノ成績ニ付キマシテ、今直ニ論斷ヲ下スコトハ何デアリマスケレドモ、今後は等ノ馬ヲ軍隊ニ補充イタシマシテ、能力ヲ試驗イタシマシタ後ニ正確ナ結論ヲ得タイト考ヘテ居リマス、ガ併シ大體ニ於キマシテ、今マデノ成績カラ觀察ヲ致シマスレバ、斯ノ如クシテ改良増殖イタシマシタ馬ハ、大部分軍用馬トシテ使用シ得ルニ至ルダラウト云フ豫想ヲ持ッテ居ル譯デアリマス

○子爵西尾忠方君 將來何デスカ、サウシマス此成績ニ依ッテ陸軍ノ方デハ更ニ其事業ヲ擴張サレル御計畫デゴザイマスカ

○政府委員(小磯國昭君) 本問題ニ付キマシテハ屢、論議研究ヲ致シタノデアリマシタガ、此種ノ増殖試驗ヲヤルト云フコトヨリハ、ヨリ以上ニ軍馬ノ補充上ニ於テ努力シナケレバナラヌ分ガ澤山アリマスノデ、此種ノ試驗ヲ雄基支部ノ擴張ヲ致シマシテ、將來多クノ馬ヲ得ヤウト云フ計畫ハ、現在ニ於テハ持ッテ居リマセヌ

○子爵西尾忠方君 農林當局ニ承ハリタイ

ノデアリマスケレドモ、是ハ朝鮮ノコトハ
或ハ拓務省ノ方ノ御所管デゴザイマスカモ
知レマセヌケレドモ、朝鮮ニ於テハ馬ノ増
殖ヲ假ニ可能ト致シマシテモ、現在ノヤウ
ニ牛ガ殆ド一般ニ普及シテ居ルヤウナ状態
デアリマスカラ、此間ニ馬匹ノ需要方面ニ
付キマシテ相當ナ、指導獎勵ト申シマスカ、
方策ヲ御講ジニナラナケレバ、朝鮮デモ相
當馬ノ生産ヲスルコトガ實際出來ナイカト
思ハレマス、成程農業其他ノ組織ニ於キマ
シテハ、長イ歴史カラ行キマシテ、アノ牛
ヲ使用シテ居、タヤウナ状態デアリマスケ
レドモガ、段々此時勢ノ發達ニ從ヒマシテ、
所謂「スピード」時代トデモ申シマスカ、交
通運搬ノ方面ニ付キマシテハ、如何ニ朝鮮
デモ牛ノヤウナモノデ満足シテ居ルコトハ
ナカラウカト私ハ想像イタスノデアリマ
ス、サウシテサウ云フヤウナ方面ニ付キマ
シテ、適當ナ改善指導ヲ行、タナラバ、可ナ
リノ頭數ガ朝鮮デモ需要サレルカト思ヒマ
スガ、其邊ニ付テ當局トシテ何カ御考ヘニ
ナリマシタコトゴザイマセウカ、ゴザイ
マスレバ承ハリタイト思ヒマス

○政府委員(戸田保忠君) 其點ニ付キマシ

テハ、先程鍋島男爵ノ御質問ノ際ニモ申上

ゲマシタヤウニ、朝鮮ニ於ケル馬産ノ餘地

ガ存スルヤ否ヤト云フ點ガ先ヅ第一ト思フ
ノデアリマス、ソレハ只今御尋モアリマス
ルヤウニ、朝鮮ニ於ケル牛ノ頭數ガ非常ニ
多ク、且ソレガ朝鮮ノ産業及農家經濟ト離
ルベカラザル結付キヲ持、テ居リマスノデ、
産馬ノ獎勵ノ餘地ノ點ヲ考ヘマス、直ニ
牛ヲ馬ニ替ヘテ行クコトハ、餘程……或ル
程度ニハ出來ルト思ヒマスガ、指導ノ仕方
等ニ付テ、只今御話ノヤウニ相當考慮ヲ要
スルト思フノデアリマス、併ナガラ只今御
話ノアリマスルヤウニ、需要ノ方面カラ申
シマシテ、馬ノ利用増進ト云フ點等カラ考
ヘマスレバ、ソレト更ニ先程モ申上ゲマシ
タヤウニ、咸鏡南北道ニ於ケル馬ノ飼料等
ノ關係及ビ周圍ノ事情カラ考ヘマシテ、少
クトモ咸鏡南北道等ニ於キマシテハ、馬ノ
生産ノ餘地ガマダ相當存スルモノト思ハレ
ルノデアリマス、唯、何頭ノ増殖計畫ヲ立テ
ルカドウカト云フ問題ニナリマス、今具
體的ニ申上ゲ兼ネマスルガ、遠觀ヲシテ考
ヘマス所デハ、朝鮮ニ於テ近キ將來ニ於テ
餘地ガアリマスルノハ、咸鏡南北道ガ馬産
地トシテ相當有力デアルト考ヘルノデゴザ
イマス、御尋ノ具體的ニ牛ト馬トノ關係ヲ
ドウ云フ風ニ指導スルカト云フコトニ付キ

マシテハ、事項ヲ分ケテ具體的ニ申上ゲル
迄ノ材料ハ只今有、テ居リマセヌ

○子爵西尾忠方君 少シ私ノ伺、タコトガ

能ク徹底シテ居ナイヤウニ思ヒマスガ、咸
鏡南北道デ馬ノ生産ガ出來ルト云フヤウナ
コトハ、私ハ専門家デアリマセヌケレドモ、
恐ラク間違ハナカラウト思フ、若モ手ヲ掛
ケテ牧場ヲ設置シテ……牧場ヲ設置シナイ
迄モ相當ニ草ガア、テ、氣候ガ相當宜ケレ
バ、馬ハ非常ナ數ガ出來ルノデハナイカト
思ヒマス、併ナガラ需要ガナケレバ幾ラ造
テモ一向馬ハ殖エナイデ、終ニハ潰レテシ
マフ、ソコデ朝鮮ノ道路ガ開發サレタリ、
或ハ段々土地ノ開發ニ從、テ、斯ウ云フヤウ
ナ狀況デアレバ、交通、運搬其他ニ付テマ
ダ朝鮮ノ需要ガ非常ニ殖エル、一面段々サ
ウ云フモノガ出來ルト云フコトハ、今迄牛
バカリデヤ、テ居、タ農耕ノ方ハ兎モ角トシ
テ、色ミナ運搬ヲ馬ノ方ニ段々替ヘテ行ク
ヤウナ傾向ハ、大體一般ノ文明國デモ斯ウ
云フモノデハナカラウカト思ヒマス、ソレ
等ニ付テドノ位朝鮮デサウ云フコトガ行ハ
レルカト云フヤウナ點ニ付テ、御調べニナ
タカドウカト云フ點ヲ御伺ヒシタイト思フ
ノデアリマス

○政府委員(戸田保忠君) 只今御話ノヤウ

ナ點ハ、例ヘバ咸鏡道等ニ於テ馬ガ生産セ

ラレタ場合ニ、利用ノ方面ニナリマスガ、
朝鮮ニ於テ只今米ノ増産ノ計畫等モ立テテ
居ルヤウデアリマス、サウ云フ風ニナリマ
スレバ、其米ヲ僻地カラ相當ナ位置ヘ動カ
スノニモ、矢張り馬ノ背中ニ依ルト云フヤ
ウナコトガ、道路ノ開發ト相俟、テ、相當行
ハレルモノト思ヒマス、從、テ今日以上ニ馬
ノ需要モ朝鮮ノ産業ノ發達ノ狀況ニ應ジテ
行ハレルモノト思ハレルノデアリマス、唯
御尋ノ點ヲ然ラバドウ云フ風ニ指導シ、ド
ウ云フ計算等ニ依、テ進メテ行クカト云フ
コトノ具體的ナコトニナリマス、ソレ程
具體化シタダケノ資料ヲ持、テ居リマセヌ
ト云フコトヲ申上ゲタ次第デアリマス

○子爵立花種忠君 先程陸軍當局カラ伺ヒ

マス所ニ依リマス、軍事上ノ必要馬數ハ
約百五十万頭、然ルニ實際ハ其三分ノ一以
下ナル所ノ四十七万頭位ノ馬數シカ得ラレ
ナイダラウト云フコトヲ伺ヒマシタノデス
ガ、農林省カラ戴イタ「馬産上ニ及ボシタ
ル效果」ト云フ参考書ヲ拜見イタシマシタ
ガ、今日非常ニ競馬法施行以來好影響ヲ示
シテ、益、馬ハ良クナリ、馬ハ必ズ將來増
加シテ來ルダラウト云フヤウニ見エルヤウ
ニ思ヒマス、併シ外見ダカラ分リマセヌガ、

一方ニハ大變樂觀的ナ御報告ガアルニモ拘ラズ、一方ハ所望ノ三分ノ一得ラレルカ得ラレナイカ分ラナイト云フ狀況デアル、デ私ハ今マデ耳ニシテ居ル所ニ依ルト、内地ノ馬産總數ト云フモノハ減テ來ルヤウニ聞及ンデ居ル、ソレハ一面ニ於テ交通機關ノ機械化シタト云フ關係上、サウ云フコトニナッテ居リハシナイカトモ考ヘマスルケレドモ、相當ニ審議會ヲ開イテ答申ヲ取ラレタリシテ、色々御心配ニナッテ居ラッシャルコトデモアリ、又議會ノ方ニ於テモ可ナリ前ニ、ムヅカシイ問題ガアッタ此競馬法ヲ、大正十二年ニ通シ、國家ノ産業上モ無論デアリマスガ、軍事上ニ必要デアルト云フコトデ之ヲ通シタノデアルガ、一向其成績ハ御報告ノアルヤウニ擧ガッテ來ナイノデアルト云フコトヲ、素人デアリマスガ考ヘルノデアリマス、デ内地ガ殆ド行詰テ居ルトスレバ、先程御説明ノ通り、朝鮮及滿蒙附近ト云フコトニナリマス、滿蒙ハ別問題トシマシテ、朝鮮デドウシテモモウ少シカヲ注イデ行カナケレバ、第一線ノ供給ニモ足ラナイト云フコトニナリマス、コトハ、明カニ分ッテ居ル、陸軍ノ雄基支部ノ年々ノ馬ノ產馬數ハ、先程モ御説明アリマシタガ、十頭トカ十三頭……十五頭デア

リマシタガ、極ク少數デアリマス、ソレカラ總督府ノ方デヤッテ居ルモノ、及ビ咸鏡北道ノ雄基支部等デヤッテ居ルモノ、是ハ甚ダ貧弱ナモノデアリマス、斯ウ云フヤウナ狀況デアルノニ、朝鮮モ追々開ケテ來タナラバ、矢張り交通機關ノ機械化ニ伴ッテ產馬數ガ減ルト云フコトガ、若モ起ッテ來タナラバ……是ハ遠キ將來ダラウト思ヒマスガ、一體ドウシテ軍事上ノ所望數ヲ御充タシナルコト云フ御考デアリマセウカ、無論今マデノ豫算等ガ足りナイ關係上デ、心ニ焦ッテ居ラレツツ出來ナカッタノデアリマセウガ、一面ニ考ヘテ見レバ、今度ノ競馬法ノ改正ニ依テ生レタ大キナモノヲ此方面ノ改良ニ使ハレテ、今マデノヤウナ貧弱ナコトハアルマイト思ヒマスケレドモ、可ナリ國家機關トシテ御心配ニナッテ居ルニ拘ラズ、餘リ成績ガ擧ラナイヤウニ私共ハ見テ居ルノデアリマスガ、御努力ガ足りナイト云フコトヲ責メルノデハアリマセヌ、アリマセヌガ、御心配ニナルダケノモノガ出來テ居ナイト云フコトヲ非常ニ遺憾ニ思フノデアリマス、是ハ陸軍當局カラモ伺ヒタイノデアリマスガ、農林當局トシテ將來ドウ云フ風ニ積極的ニ爲サルノデアリマス、マア段々ニヤッテ行カウト云フ位ナ緩慢ナ御考デア

ルノデスカ、話ハ少シ横道ニナルカ知レマセヌガ、我々ノ豫想スル戰場ハアノ方面ニアル、殊ニ總テガ機械化シタ……ト言ヒマスケレドモ、日露戰爭時分ニ於テ兵員百ニ對シテ馬ガ二十頭デアッタモノガ、世界大戰ノ時ニハ非常ニ機械化ニナッタニ拘ラズ、兵員百ニ對シテ馬ガ三十七頭ト云フヤウニ非常ニ殖エテ居リマス、後デ私伺ヒタイノデアリマスガ、陸軍當局ニハ……今日ノ狀況ハドウ云フ狀況カト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマスガ、矢張り馬ト云フモノハ、機械化スルニ拘ラズ相當ニ必要ナモノダト云フコトハ、私共ノ素人ニモ分ルノデアリマシテ、先程申シタ通り、朝鮮ニ師團ハ置イテアリマスルケレドモ、此第一線ノ所望馬數ハ連モ足りナイト云フコトハ、此前ノ日露戰役以後ノコトニ付テ見マシテモ、内地カラ送ラナケレバナラヌト云フヤウナ狀況デアルノデアリマス、是ダケデモ充タシ得ルダケノモノハ……開戰一年ダケデモ充タシ得ルダケノモノハ、朝鮮ニ準備シテ置カナケレバナラヌデヤナイカ、促進、即決シナケレバナラヌ日本ノ狀況ダトシテ見レバ、甚ダ遺憾ダト思ヒマスガ、少ナクトモ一年間位ノ準備ハ無クチャナラヌノデヤナ

イカ、ソレガ現在ノ朝鮮アタリノ狀況ト云フモノハ、我々ノ全ク此方面ニ無智ナ者ガ或ル書類デチョット覗イタダケデモ、一體ドウナサルト云フコトヲ危ムノデアリマス、ソレニ付テ先ヅ農林當局カラ、將來ノ施設ニ付テ、ドウ云フ風ナ方法ヲ以テ、必ズ軍事上ハ勿論、産業上ニ於テ遺憾ナキヲ期スルカト云フコトヲ伺ッテ置キタイノデアリマス

○政府委員(戸田保忠君) 御承知ノヤウニ馬政計畫ガ只今第二期ニナッテ居リマス、其馬政計畫ニ於テ百五十萬頭ヲ維持イタシマスニハ、内地ニ於テ百五十萬頭維持スルト云フ計畫ニナッテ居ル次第デアリマスガ、遺憾ナガラ百五十萬頭ヨリ稍、少ナク、只今統計ノ示シマス所デハ、約百四十九萬頭デアリマス、若シ競馬法ガ施行セラレザリシトセバ餘程影響ガ今日アタリハ大キカッタノデナイカト思フノデアリマス、書類ヲ差上ゲマシタノニハ、其競馬法ノ及ボシタ效果ニ付テ主ニ書キマシタノデゴザイマスガ、其當時ノ馬產地等ノ狀況ハ、本年馬産經濟ガ牛其他ノ動物ノ經濟トハ餘程異ナル所ガアリマシテ、産業上ハ、殊ニ種牡馬ナドヲ持チマスコトハ、ナカ……經濟上ムヅ

カシイ點ガアルノデアリマス、從テ成行ノ儘ニ放任イタシテ置キマスレバ、漸次素質モ惡クナリ、數モ減少スル傾ガアルノデアリマスガ、一方軍事上ノ必要モ國防上ノ必要モゴザイマシテ、此競馬法ガ認メラレタモノト存ジマスルガ、數字的ニハ中ミ計數ガ出テ參リマセヌノデ、御説明ニ困難デゴザイマスケレドモ、其當時、馬券ノ禁止時代ニ馬產地ノ……禁止ガ相當長ク續イタ爲ニ馬產地ノ困難ヲ致シタ狀況ヲ聞キマシテ、競馬法ガ制定セラレタ後ニ、馬產地ガ其爲ニ喜ビマシタ狀況ヲ併セテ考ヘマス、若シ競馬法ト云フモノガ復活……馬券ヲ賣ルコトヲ認メルト云フコトガ復活セザリセバ、今日以上ニ馬産ハ衰退シテ居ルモノト思ハレルノデアリマス……ト想像サレマス、一方競馬デ能力鍛鍊ヲシマスル馬ノ關係カラ、其馬ヲ造ル爲、或ハ又一方間接ニ、競馬ノ運用ニ依リマシテ得マシタ金ニ依リマシテ、政府ガ施設スルコトモ出來マスシ、又各競馬俱樂部等カラノ任意ノ支出ニ依リマシテ、產馬地ニモ、或ハ其他ノ馬事團體等ニモ相當ノ金ノ支出モ出來マス、云フヤウナ關係カラ、競馬ガ行ハレテ居リマス爲ニ、此產馬ト云フコトニ影響ヲ與ヘテ居ルコトハ、相當大ナルモノガアルドラウト思

ヒマス、此度ノ競馬法ノ改正ニ依テ得マサル財源カラハ、第一ハ先程大臣カラモ申サレマシタヤウニ多年ノ懸案デアリマシタ、馬ノ生産費ヲ低減ヲシテ馬ヲ生産シ、且ツ强健ナル馬ヲ得マス爲ニハ、牧野ノ必要デアルコトハ申ス迄モナイノデゴザイマシガ、法律ノ制定ト云フヤウナコトハ、各種ノ關係カラ實現イタシマセシタノヲ、此度其財源ニ依リマシテ、法律ヲ作リマスト同時ニ、馬ノ牧野ノ改善ニ付テハ、相當ノ助成金ヲ出シマシテ、牧野ノ改善ヲ行ハシムル積リデゴザイマス、ソレカラ馬政計畫ニ依リマスト、千五百頭ノ國有種牡馬ヲ持ツ筈ニナツテ居ルノデアリマスガ、豫算等ノ關係カラ、只今デハ其定數ガ千二百五十頭ニナツテ居リマシテ、アトハ貸付馬デ濟マシテ居ルノデアリマスガ、貸付委託制度ノ種馬ハ、國有ノ種馬所ニ繫イデ居リマスモノニ比較イタシマス、素質等モ劣ルノデアリマス、此度ノ競馬法ノ改正ニ依リ財源ニ依リマシテ、種馬ヲ、馬政計畫ニ定メラレテ居ル如ク、千五百頭ヲ維持イタシマシテ、只今マデ二百五十頭ヲ民間ニ委託イタシテ居リマシタノヲ、國有ノ種馬所ニ繫グヤウニ計畫シテ居リマス、一方民間ニ於ケル種牡馬ハ矢張り馬産ノ經濟其他カラ、殊

ニ近年ハ不況等ノ關係モアリマシテ、種牡馬ノ質ガ動モスレバ惡クナル、或ハ此種牡馬ヲ維持シテ行クコトガ、畜産組合其他ニ於キマシテモ、非常ニ困難デアリマシテ、此種牡馬ハ產馬ノ獎勵ノ上カラ申シマスレバ、單純ナル個々ノ農家經濟ト異リマシテ、民有ノ種牡馬ヲ相當ニ良クスルト云フコトハ、民有ノ種牡馬ヲ相當ニ良クスルト云フコトハ必要ナコトデアリマスルカラ、收支ノ計算ノ上カラ申シマス、ドウモ只今ノ現況デハ損失ガ多イノデアリマス、其損失ハ國家ガソレヲ幾分負擔イタシマシテ、民有ノ種牡馬ニ對シテハ助成金ヲ交付スルコトニ致シマシテ、民有種牡馬ノ營養ヲ從前ニ比シテ容易ナラシメル爲ニ、相當ノ經費ヲ計上イタシマシテ、國有種牡馬ノ充實ト民有種牡馬ノ營養獎勵ニ對スル助成金ト併セマシテ、詰リ種牡馬ノ充實ヲ圖リタイト考ヘテ居ル次第デアリマス、ソレカラ競馬ノ施行ニ付キマシテモ、昭和四年ノ競馬法ノ改正ニ依リマシテ、從來トハ競馬ノ施行方法ヲ相當變ヘマシテ、成ルベク軍部ノ要求ニ合フヤウニ努メテ居ル次第デゴザイマス、此度ノ改正ニ當リマシテモ、競走番組等ニ付キマシテ、是ハ今朝程モ申上ゲマシタヤウニ、此前ノ改正ノ時ノ如ク總テニ強

要スルノデハゴザイマセヌガ、日數ノ増加ニ付キマシテ、番組等ヲ編成スル上ニハ成ルベク實用馬ノ鍛鍊ニ適シマスヤウニ考慮ヲ用ヒタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

○子爵立花種忠君 此度此競馬法ヲ又御改正ニナリ、ソレカラ又牧野法ヲ御出シナルト云フコトデアリマスカラ、無論農林當局ニ於カレテモ、馬ノ大切ナルコトハ、能ク御承知デアルト云フコトハ御察シ申シテ居リマスガ、ドウモ過去ノ實蹟ヲ見テモ、御盡力ガ足りナイノデハナイカト云フヤウナ氣ガスル、ソコデ私ハ方向轉換シマシテ、陸軍當局ニ伺ヒマスガ、歐羅巴ノ戰爭ノ時分ニアノ參加シタ列強ノ使ッタ總馬數ガ御分リニナルナラバ伺ヒタイ、只今デナクテモ宜シウゴザイマス、明日デモ、後デ伺ッテモ宜シウゴザイマスガ、戰後ノ列強ガ馬ニ對スル對策ハドウ云フ風ニシテ居ルカト云フコトヲ伺ヒタイ

○政府委員(小磯國昭君) 歐洲戰爭中使ヒマシタ馬ノ總數竝ニ戰後ニ於ケル所ノ馬ニ對スル趨勢ノ詳細ニ付キマシテハ、改メテ調査ヲ致シマシテ御答ヘ申上ゲタイト思ヒマス、唯先程御質問ニナリマシタ點ニ付キマシテ、陸軍モ關係ガアラウト思ヒマスカラ、此機會ニ一言御答ヲ申上ゲテ置キマス、

事柄ハ……御質問ノ如ク近年馬ノ總數ガ増

○政府委員(小磯國昭君)

歐洲大戰ニ於キ

○子爵立花種忠君

私ハ宜シウゴザイマス

有ノ種牡馬馬體測定表、畜産局デ出シタモ

加ヲシナイト云フ事柄ハ、軍部ト致シマシ

マシテモ交戦各國ノ戦争ニ参加ヲ致シマシ

○大島健一君 参考書類ヲ澤山頂戴イタシ

ノヲ見マス、十有餘種ノ洋種馬ガ主ニ載

テモ、誠ニ遺憾ニ存シテ居ル所デアリマス、

タ馬ノ概數ヲ申上ゲマス、聯合側即チ英、

マシテ、能ク讀ンデ見タイト思ヒマスガ、

テ居ル、是ハモウ洋馬デモ日本馬デモ、數ガ

今後競馬法ヲ改正セラレマシタ爲ニ、總數

佛、露、白、伊ソレカラ「セルビヤ」ト「ルー

今日ハ一二大體ニ於テ御伺ヒ申シテ置キタ

有リサヘスレバ、是ニハ國民性モ何モ無イ

ノ増加ト云フ點ニ於テモ、多少ノ效果ガア

マニヤ」此合計ガ四千四百七十五萬頭、ソレ

イ、自分モ實ハ此事業ニハ長年關係ヲシテ

ノドレガ今日ハ最も多イカ、是ガ最も日本

ルカモ知レマセヌガ、併シ今直チニ總數ノ

カラ同盟側ハ獨逸、奧地利洪牙利、土耳其、

居リマシテ、今日ニナツタコトヲ喜ブノデア

ニ適スルト云フモノガ幾何ニナツテ居リマ

増加ト云フモノニ大ナル期待ハ、持チ兼ネル

「ブルガリヤ」此計ガ九百九十七萬頭デアリ

リマス、其當時カラ考ヘテ居、タノデアリマ

スカ、サウナツテ來ルト又此競馬ノ實狀モソ

ト考ヘマス、唯併シ今マデノ經過ニ鑑ミマ

マス、以上合計イタシマス、五千四百七十

給ト云フコトヲ能ク調和ヲサシテ行カナケ

レデ考ヲ付ケテ行カナケレバナラス、斯ウ

シテ、馬其モノノ素質方向上ヲスルデア

二萬頭ニ上、テ居リマス、次ニ歐洲大戰後ニ

乘馬、輓馬、駄馬、民間ノ使用スル所ノモ

云フ考ヲ持、テ居リマス、ソレヲ今度ハ發達

ラウト云フ事柄ハ、大體ニ於テ豫期シ得ル

於キマスル各國ノ馬政ニ付キマシテハ、改

メテ調査ノ上御答イタシタイト思ヒマス、

サシテ行ク上ニ、尙ホ費用ガ要ルト云フコ

デアラウト考ヘルノデアリマス、玆ニ於テ

メテ調査ノ上御答イタシタイト思ヒマス、

ノハ農耕ノ補助、乃至地方ノ運搬即チ駄載

トヲ、……或ハ今回ノ問題ノ如キ社會事業

カ依然百五十萬頭ガ持續ヲセラレル場合ニ

ニ機械化隊ガ著ルシク戰後増加ヲ致シマス

スル所ノ小サイ馬ノ方ガ多イノデアリマ

トデアリマセヌガ、主タル產馬ト云フ上ニ

於テモ、軍馬トシテ採用シ得ル所ノ合格率

ルニモ拘ラズ、依然騎兵ノ數ト云フモノガ

馬等ハドレダケ造ル、輓馬ハドレダケニス

餘程ノ根據ヲ置イテ掛カラヌト云フト、容

ヲ向上イタシマシタナラバ、戰時ノ所要ヲ

大ナル減少ヲ來シテ居リマセヌ、又申上ゲ

ルカト云フコトヲ先ヅ第一ニ考ヘナケレバ

易ニ手ガ出ヌ、外ノ方ハ餘、タモノヲヤラウ

充足スル上ニ於キマシテ、效果ノ大デア

マス迄モナク、機械化ガ必要デアリマスル

ナラス、ソレガ決マルト今度ハソレノ又發

ト云フ、サウ云フヤウナ考ヲ決メル上ニ、

ト云フ事柄ハ、申上グルマデモアリマセヌ

反面ニ於キマシテ、活動兵器ト稱セラレマ

達ニハ競馬ヲ一ツ考ヘテ見テモ、競馬法ト

今ノ如ク基礎ガ定、テ居、テ、ドウ云フ風ニ

ノデ、其點ニ軍部トシテハ實ハ多大ノ期待

スル此馬ト云フモノハ、各種ノ天候地形ニ

云フ有リ觸レタル事デナシニ、其調和ヲ助

施設シテ行クト云フ御考ハ大體アラウト思

ヲ掛ケテ居ルノデアリマス、其間ノ詳細ノ

於キマシテ、最モ能ク便利ニ使用セラレル

ケルヤウニ割振リヲ致シテ行カナケレバナ

ヒマス、ソレハ軍部ニモ其考ガアルガラウ

消息ハ御諒解願ヘルト思ヒマスカラ、一言

モノデアリマス結果、今申上ゲマシタ如ク

ラヌ、今日ハ馬車モ非常ニ進歩シマシテ、

シ、農林省ニモ其考ガアルガラウシ、ソレ

附加ヘタ譯デアリマス

機械化ガ發達スルニモ拘ハラズ、馬ト云フ

モノノ需要ハ餘リ減ラナイト云フ結果ヲ來

ヤーツ伺ヒタイ

○子爵立花種忠君 サウスルト只今伺ヒマ

シテ居ルノデヤナイカト云フ觀察ヲシテ居

私共ガ競馬ヲ再興シヤウト言、タ大正四五

○政府委員(戸田保忠君) 種馬ノ血液ノ整

シタ戰後列強ノ軍馬ニ對スル所ノ對策ト云

リマス、尙ホ之ニ關シマスル詳細ノ事柄ハ

年頃カラ見ルト云フト、餘程ノ發達デゴザ

理ヲ行ヒマス爲ニ、海外カラ輸入シテ現在

フコトニ付テモ、是ハ極ク大體デ宜シウゴ

ザイマスカラ、今伺フコトハ出來マセヌデ

數ガ、今日ハ洋種、雜種ノ方ガ非常ニ數ガ

ニ於テハヤッテ居ルノデゴザイマスガ、其方

セウカ

ヘ申上ゲタイト思ヒマス

増シテ參リ、ソコデ只今參考ニ頂戴シタ國

針ハ是ハ馬政計畫デ定メラレテ居ルノデゴ

ザイマスガ、大體ソレニ則ッテヤッテ居ル譯デアリマス、輕種即チ乘馬デゴザイマスガ、「アラブ」、「サラブレッド」、「アングロアラブ」デヤッテ行クヤウニ方針ヲ取ッテ居リマス、中間種即チ競馬馬ハ「アングロノルマシ」ト「ハクニー」デゴザイマシテ、現實ノ問題ト致シマシテハ、今日デハ主トシテ「アングロノルマン」ノ方ニ主力ヲ注イデ居リマス、乗用ハ「ベルシユロン」ト云フコトニナリテ居ルノデゴザイマス、此馬政計畫ニ依ッテ定メラレタル方針ニ準據シテ、年々ノ種牡馬ノ輸入等ニ付テモ努メテ居リマス次第デゴザイマス

○大島健一君 チョット私ノ言ヒ様ガ惡イノカモ知レマセヌガ、日本ノ僅カノ馬ヲ以テ軍民兩方面ノ利用ニ應ジテ、而モ是ガ經濟ニ行ケルヤウニ考ヘルト云フコトハ餘程ムツカシイ、ソコデ先程モ言フ如ク大小ノ馬ノ數ト云フモノガ凡ソドレ位アル、乘馬ハ是レ、輓馬ハ是レ、重馬ハ是レト云フ凡ソ數ガ定マッテ來テ、サウ云フモノデ……此百五十万ハ唯百五十万ニアラズシテ、其數凡ソドンナ比例ヲ持ッテ百五十万ニシヤウト云フ考ガナケレバナラヌ、馬自體ガ一體云フト人ノ思フヤウニ出來ルモノデアル、決シテムツカシイモノデハナイ、是ハ精神モ

絲瓜モナイ、體サヘ良イモノデ日本ニ合ヘバ宜イ、何デモ初メニ計畫シテ、其計畫ヲ十分片端カラ現ハスト云フコトニナッテ行カナケレバナラヌ、ソレデ其大小ノ比較ト云フコトハ……馬ノ種類モ「サラブレッド」ト云ハズ、「アングロアラブ」ト云ハズ、日本ニ宜ク合フモノ……サウ云フ馬ヲ造ッテ其比數デ凡ソ行クヤウニスル、ソレヲ造ッテ行カウト云フコトハナカ／＼ムツカシイ、又金ガ要ルト云フコトナラバ競馬法デ出テ來ル金ナドハ、寧ロ其方ニ向ケルノガ至當カモ知レナイ、餘ッテ社會事業ノ方ニ使フモ宜イデアリマセウ、必シモ國ノ租稅ト云フモノハ出テ來ル所ニ殘スト云フコトニハ定マッテ居ラス、何ニ使ッテモ宜シイ、又其事業カラ餘計ナ利益ガ上ッテ、他ノ國政ヲ助ケルコトガ出來レバ是程結構ナコトハナイケレドモ、其事業自體ヲ捨テテハイケナイ、ソレデ今ノ質問ヲシタノデアル

○政府委員(戸田保忠君) 只今申上ゲマシタ點ニ、申上ゲ様ガ足りナカタヤウデアリマスガ、輕種ハ十五「パーセント」、中間種ハ八十「パーセント」、重種ハ五「パーセント」ト云フ方針ニ依リマシテ種馬ノ方ハ充實計畫ヲ立テテ居リマス、從テ全國ノ馬ニ付テモ只今申上ゲルヤウナ「パーセンテー

デ」ニ全國ノ馬ガナルコトガ必要ト考ヘテ居ル次第デアリマス、ソレニ基キマシテ只今申上ゲルヤウナ方針ニ依リマシテ種馬ノ補充ハ年々行ッテ居リマスヤウナ次第デアリマス、從テ競馬デ能力鍛鍊ヲ致シマスニ付キマシテモ、其點ヲ考慮イタシマシテ、番組等ニ付キマシテノ方法ヲ適當ニ行ッテ居リマス次第デアリマス

○大島健一君 小サナ、民間デ使用スル農耕其他地方ノ人ガ運搬用ナドニ使フ馬ハ何レ駄載デ、今日ハ之ヲ輓馬トスル地方デハ寧ロ機械動力ヲ使ハレルカラ、小サイ馬ハ險阻ナ道ノ惡イ處ニ使フト云フコトガ民間デハ多カラウト思フノデアル、サウ云フコトモ產馬ノ方デハ調ベラレテ居ルダラウト思フ、サウ云フ馬ヲ只今御話ニナッタ是等ノ外國カラ持ッテ來タ馬デナシニ、日本ノ馬デ發達サセテ行カウトカ何トカ云フ御計畫ガアルデアリマセウカ、ソレヲ御伺ヒシマス

○政府委員(戸田保忠君) 日本ノ純粹ノ和種ニナリマス今日デハ極ク數ガ少イノデアリマス、以前カラ立テラレテ居リマス馬政計畫ニ於キマシテハ、先程申上ゲマシタヤウニ、輕種、中間種、重種ノ割合ガ馬政計畫デ定メラレテ居リマシテ、其比率モ馬政計畫デ定メラレテ居リマス、從テ其範圍

内ニ於テ其馬政計畫ノ實現ヲ期スベク努メテヤッテ居リマスヤウナ次第デアリマス、特ニ例ヘバ北海道デ申シマスレバ土產馬デアリマストカ、島根縣デ言ヘバ隱岐島ノ馬トカ云フヤウナモノガアリマスガ、サウ云フ處ニ特殊ノ土產ノ、從來カラノ馬ガゴザイマスガ、相當隱岐ノ馬等ニ付テノ改良モ行ッテ居リマスノデアリマスガ、特殊ノ、北海道ノ土產馬デアリマストカ、或ハ隱岐ノ馬ト云フモノヲ基礎トシテ、ソレヲドレダケ存シテ置クカト云フ方ハ考ヘテ居リマセヌノデ、先程申上ゲマシタヤウニ馬政計畫ニ依ッテ定メラレマシタル血種ノ區別ニ依ッテ、全體ヲ改良シテ參リタイト云フ計畫ヲヤッテ居ルヤウナ次第デアリマス

○大島健一君 陸軍當局デ此駄載用ノ馬ハドウ云フヤウナ種類ヲ望ムト云フヤウナコトガ、凡ソ今日デハモウ考ガ付イテ居ラウトカト思フノデス、サウ云フヤウナ馬ヲ今日本デイザ鎌倉ト云ヘバ徵發スル、ソレガ主ニドウ云フ馬ニ屬スルカ、アレハ年々徵發スル馬ノ檢査ヲシテ置クトマデハ行ッテ居ラスカ知ラスガ、其概況ヲ話シテ貰ヒタイ

○委員長(伯爵黒木三次君) チョット大島君ニ伺ヒマスガ、只今陸軍ノ政府委員ハ不在デアリマスガ、軍務局ノ馬政課長ガ居リ

マスカラ説明員デ宜シウゴザイマス

○大島健一君 宜シウゴザイマス

○説明員(高波祐治君) 説明イタシマス、

陸軍デハ平時保管シテ居リマス馬ノ乗馬、

戦馬、駄馬ノ比率ト、戦時ニ要求シマスル

乗馬、戦馬、駄馬ノ比率ハ非常ニ差ガアリ

マス、サウ云フ譯デアリマシテ、年々是ハ

經費ノ關係モアリマシテ、各師團ニ於キマ

シテ地方馬ノ検査ヲヤツテ居リマス、ソレハ

經費ノ節減サレタ關係デ一師團管内ノ地方

馬ノ検査ヲスル爲ニ、一巡スルニハ七年モ

カカルヤウナ狀況デアリマス、甚ダ遺憾デ

アリマスケレドモ、併シサウ云フヤウナコ

トモ忍ンデ實行シマシテ、年々十數万頭ダ

ケハ全國ニ互ッテ検査ヲシテ居リマス、ソレ

等ノ検査ノ結果年々合格率モ多クナツテ來

テ居リマスシ、又今ノヤウナ比率デ駄馬ヲ

取ルト云フヤウナ點ニ於キマシテハ、サウ

心配ヲスルヤウナ狀況デハアリマセヌ、唯

平時ノ保管馬ノ狀況ガ、乗馬ノ比率ハ非常

ニ多イノデアリマス、サウ云フヤウナ譯デ

アリマシテ大體ノ馬政計畫ニ基イテ國內産

馬ノ血液ヲ、先程農林當局モ話サレタヤウ

ナ比率デヤラレルト云フコトニ付テハ陸軍

ニ於テモ同意シテ居リマスルガ、平時保管

馬ヲ買上ゲマスル點ニ於テハ、一番困テ居

ル

ルノハ乗馬ノ點デアリマス、一般ニ十五、パ

ーセント」位ノ乗馬ヲ生産シテ居リマシテ、

其血液モ實際言ヒマス第二期計畫ニ於テ

ハ計畫通りニ血液ノ分配ハ行ッテ居ラヌト

思ヒマス、ソレハ民間ノ種牡馬ノ數ガ著シ

ク國有種牡馬ニ比シテ多イノデアリマス、

サウシテ民間種牡馬ハ必シモ今農林當局デ

示サレタヤウナ「パーセンテージ」デ行ッテ

居リマセヌ、從テ軍部ノ平時ノ保管馬ニ對

スル買上ニ於テハ乗馬ニ付テ非常ニ困難ヲ

シテ居リマスガ……困難ト云フヨリモ乗馬

ノ方面ノ比較ガ軍部ノ要求ニ對シテ他ノモ

ノニ比シテ劣ッテ居リマス、サウ云フヤウナ

譯デアリマス

○大島健一君 只今ノ御答ニ付テモウ一言

補ッテ戴キタイノハ、軍部ノ見ル所デハ、今

ノ馬事獎勵ト云ヘバ競馬ニ關シテヤツテ居

ルヨリ外ナイノデアアルガ、此方法デ駄馬ヲ

將來補充スル上ニハ十分デアル、今乗馬云

云ト云フコトガアリマシタガ、寧ロ其馬ノ

方ハ十分ナラズトモ、競馬ノ出場馬ノ表ヲ

見ルト發達シテ行キサウデ、駄馬ト云フモ

ノノ發達ガ却テ不十分、將來或ハ駄馬ノ徵

收ニ困ルト云フコトガアリハシナイカ、其

事柄ガ總テ民間デ使フ馬ニモ不十分デア

ル、是ハ主ニ先程申ス山地輸送乃至ハ農耕

用トシテ結構デアル、然ルニサウ云フ馬ガ

段々少クナツテ來ル、軍部ノ動員時ニ駄馬

ノ徵收ニ、民間ノ飼養ガ十分應ズルコトガ

出來ヌヤウニナルト云フコトガアリハセヌ

カト云フ懸念ヲ持ツ、ソレニ付テ軍部ノ動

員時ニ於ケル將來ニ對スル見込ヲモウ一言

述ベテ戴キタイ

○説明員(高波祐治君) 現在ノ所デハ實ハ

産業カラ考ヘマスルト、軍部デ考ヘテ居ル

ヨリモ寧ロ小格ナ非力ナ馬ヲ欲シテ居ルヤ

ウナ一面ガアルノデアリマス、ソコテ軍部

トシテハ駄馬若クハ小格輓馬ト云フコトニ

ナツテ居リマス、駄馬ニ使フ場合モアリマス

ルガ又輓馬ニモ使ヒマス、ソレヲノ關係デ

寧ロ内地ノ産業狀態ヲモット有畜農業シマ

シテ、今少シク現ニ農家アタリデ所謂土産

馬ニ近イヤウナ馬ヲ使フ方面ハモウ少シ大

型ナ有力ナルモノニシテ貰ヒタイト云フヤ

ウナ大體ノ希望ハ持ッテ居ルノデアリマス

ルカラ、競馬ニ依ッテ馬ノ資質ガ良クナルト

云フコトハ各種ノ馬ガ良クナツテ來ルト思

ヒマス、殊ニ輓馬、中間種ノ出來損ヒ、ソ

レカラ、輕種ノ出來損ヒノヤウナモノガ、

所謂小格輓馬ト稱シテ居ルモノトナリマス

ル關係デ、今ノ所ハ其小サイモノヲ取ル爲

ニ數ニ不足ヲ來シテ居ルト云フヤウナコト

ハナイヤウニ思ッテ居リマス

○男爵鍋島直明君 今ノ大嶋サンノ御質問

ニ關聯シテチヨット承ハリタイ、國有種牡

馬、數年前迄ハ購買官ノ人ニ依ッテ、或ハ

或人ハ「ハクニー」ガ好キ、或ハ「ギドラン」

ガ好キ、或ハ「サラブレッド」ガ好キトカ云

フ工合ニ、隨分其出張員ノ人ニ依ッテヤツ

テ居ラレルト云フヤウナ趣ガチヨット見え

タヤウデアリマスルガ、此度買フ時分ニハ

此種類ト云フヤウナコトヲ御決メニナルモ

ノデセウカ、ソレヲ伺ッテ置キタイ

○政府委員(戸田保忠君) 從來ノ永年ノ經

驗ニ依リマシテ、一方馬政計畫ニ依リマシ

テ、血種ノマコトガ定メラレテ居リマスカ

ラ、或時代ニハ試驗的ニ色ミナ馬ヲ入レタ

コトモゴザイマスガ、今日デハ餘リ試驗的ニ

色ミナ馬ヲ入レヤウト云フコトヲ政府當局

デモ言ッテ居リマセヌ、輕種トシテハ「サラ

ブレッド」、「ソレカラ「アラブ」、「アングロアラ

ブ」ト云フヤウナ限定ヲシテ、年々購買シテ

居ルノハ純血デハ「サラブレッド」デゴザイ

マス、ソレカラ一方「アラブ」ヲ必要ニ依ッテ

買ッタ年モゴザイマス、ソレカラ中間種デハ

今日ハ殆ド「アングロノルマン」ヲ買ッテ居

ルヤウナ次第デアリマシテ、試驗的ニ色ミ

ナ馬ヲ澤山買フコトハ、或ル試驗ヲ行フ爲

ニ

ニ

ニ

ニ必要已ムヲ得ザル場合ハ別デゴザイマス
ガ、購買官ノ好惡ニ依ッテ色ミナ種類ヲ買フ
ト云フコトハ出來ルダケ避ケテ居リマス

○男爵鍋島直明君 此血種ノコトハ第一期

計畫ニ依ッテヤッテ居ラレコトデアリマス
カラ、日本ノ氣候風土ニ應ジテ、且ツ日本
ノ牡馬ニ對シテ凡ソドレ位取ルト云フコト
ガ決マッテ居ルダラウト思ヒマス、サウ致シ
マス今御話ノ中ニハ「ベルシユロン」種ガ
矢張り輓馬ノ中ニ這入ルト云フコトハ、政
府ニ於テハ矢張り輓馬トシテ日本ニ「ベル
シユロン」種ハ適當ナリト認メテ御出デニ
ナルノデアリマス

○説明員(横屋潤君) 重種ノ蕃殖ニ付キマ

シテハ、馬政局時代ニ入レマシタ種牡馬ノ
種類ヲ申上ゲマス、先程御話ノ「ベルシ
ユロン」種ト、其他ニ於キマシテハ確カ明治
四十三年ダッタ思ヒマスガ「ブラバンソ
ン」ヲ三頭入レマシテ、二頭ハ秋田種馬所
ニ、一頭ハ長萬部種馬所ニ、ソレダケデゴ
ザイマス、其他御承知ノ「スコットランド」
邊リニ出來ル「クライデスデール」種ガアリ
マシタガ、是ハ戰役ノ結果種牡馬トシテ繁
殖シタ方ガ利益ダラウト云フ意味デ、國モ
繁殖ノ意味カラ入レタモノデアリマセヌ
ノデス、次ニ御尋ノ「ベルシユロン」種ハ我

國ニ於テ最モ適シテ居ルヤ、他ニ或ハ御話
ノ馬ニ於テ「ボスチエーブルトン」ノ如キ
品種ヲ更ニ持ッテ來タ方ガ佛蘭西ノ現狀カ
ラ見テ宜イデヤナイカト云フ御尋カモ知レ
マセヌケドモ、御承知ノ如ク北海道ニ於テ
拓殖時代ニ於キマシテ「ベルシユロン」種ノ
一種デアリマシテ今日マデ及ビマシタ、
ソレガ不都合トモ云フベキモノノ、他種ヲ
以テ之ニ代ヘルト云フ程度ノコトヲ認メマ
セヌ、既ニ御承知ノ如ク十八年計畫モ終ヘ、
十二年計畫モ終リマシタ後ニ於テ終ル、三
十年計畫モ終リマスコトデスカラ「ボスチ
エーブルトン」ノ如キハ「ブルトン」種牡馬
ニ「ハクニー」ヲカケテ出來マシテマダ歴史
トシテ二十年、三十年ニ滿タザル所ノ種牡
馬ヲ以テ其遺傳力ノ如何ト云フコトニ付テ
ハ、多少我國トシテハ考慮ノ餘地モアルダ
ラウト思ヒマシテ、現在ニ於テハ「ベルシユ
ロン」種ヲ以テ唯一ノ重馬ノ改良ニ使用ス
ル、斯ウ云フヤウニ心得テ居リマス、尙ホ附
ケ加ヘマシテ、重種ヲ蕃殖シテ居リマス所
ハ北海道竝ニ秋田ト長崎縣ノ南高來郡、即
チ島原半島、此二縣ニ於テ使ッテ居マスノデ
スガ、秋田竝ニ島原ニ於テハ直接ノ「ベルシ
ユロン」種或ハ「ボスチエーブルトン」種デ
ハアリマセズ、現在ニ於テハ秋田ノ如キハ

寧ロ中間種系ノ種牡馬ニ變リツツアルヤウ
ナ現狀デアリマス、島原ニ於キマシテハ最
近熊本種馬所ノ二頭ノ「ボスチエーブルト
ン」種ヲ以テヤッテ居マスガ、其成績ハ大體
ニ於テ好イヤウデアリマス

○男爵鍋島直明君 尙ホ此御答ニ付テ一ツ

質問ヲシタイト思ヒマスガ、外ニ何デゴザ
イマスカラ、此位デ止メテ置キマス、政府
委員ニ一ツ御願ヒシタイノハ、昨年、一昨
年邊リニ於テ公認競馬ノ十一箇所ニ於ケル
所ノ各競馬場ノ總收入ガ凡ソ幾ラニナリマ
スカ、各競馬ニ分ケテ一ツ表ヲ出シテ貰ヒ
タイ、若シ出來マスレバ其實上金ト、ソレ
カラ或ハ入場料デ取りマシタ所ノ金ノ種
類、高ト云フ表ヲ一ツ御出シテ願ヒタイ、
又出來マスレバ之ニ付キマシテ凡ソ政府ガ
此改正ニ依ッテドレ位ノ收入ガ得ラレルト
云フコトガ出來マスレバ、或ハ「ブラッセー」
ヲ以テドレ位出來ルトカ、或ハ日數ヲ増加
シタ爲ニドレ位ノ増加ガ出來ルト云フ或ハ
御豫定ガアリマスルナラバソレヲ附ケ加ヘ
テ、或ハ別表ニシテデモ宜シウゴザイマス
カラ、明朝マデニデモ成ルベク早く一ツ御
願ヒシタイト存ジマス

○政府委員(戸田保忠君) 御尋ノ點ノ初メ

ノ御註文ノ點ノハ調ベマシテ差上ゲルコト

ニ致シタイト思ヒマス、第二ノ點ノハ極ク
簡單ニ申上ゲルコトガ出來ルト思ヒマス
ラ此處デ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、ソ
レハ此度ノ改正ニ依リマシテシテ詰リ増收ノ
見込ノ御尋ト存ジマス、是ハ複勝式ヲ併用
イタシマスルコトニ依リマシテ賣上高ガ約
四割増加スルモノト考ヘタ次第デゴザイマ
ス、ソレカラ制限超過金ヲ拂戻スコトニ依
リマシテ約一割賣上金ガ増加スルモノト見
マシタ次第デアリマス、ソレカラ日割ノ増
加ニ依リマシテ約一割六分増加スルモノト
見マシタ次第デゴザイマス、サウシテ一方
ニ於テ政府納付金ハ、今日ハ最高ハ百分ノ
四デゴザイマスガ、最高ハ百分ノ六ニ致シ
マシテ、六以下デ實際ノ各俱樂部ニ對スル
割當額ハ一日ノ賣上高何万圓以上ハ幾ラト
云フヤウニ極メル積リデ居リマス、是ハ現
在ハ最低百分ノ二デ實際ハ運用イタシテ居
リマスガ、一方ニ於テ制限外ノ超過金ト申
シマスモノハ、俱樂部ニ依リマシテハ今日
ノ現狀デハソレガ俱樂部ノ收入ニナルコト
ハ……俱樂部ノ收入ヲ助ケテ居ル點モゴザ
イマスノデ、其點ヲ考慮イタシマシテ賣上
高ハ新ニ施行規則ヲ作リマスル際ニハ、賣
上ノ少イ所ハ百分ノ一カラ致シマシテ最高
百分ノ六ニ達スルマデノ賣上金高ニ依ッテ

區分ヲシタイト云フコトヲ大體ニ於テ考ヘテ居リマス、デ只今申上ゲマシヤウナ割合デ賣上ガ増加スルト云フ豫想ノ下ニ只今豫算デハ約賣上ガ五千万圓ノ賣上ト云フコトカラ大體出來テ居リマスガ只今ノ收入豫算デゴザイマス、年額百六十万圓バカリノ收入豫算ニナッテ居リマス、實際ノ成績ハ少シ不足イタシテ居リマシテ四千二百萬圓バカリノ賣上ニナッテ居リマシテ、百三十五萬圓バカリノ實收ニナッテ居リマス、政府納付金ガ……此度ノ改正ニ依リマシテ此豫算上デ申シマスレバ約五千万圓デ、昨年ノ實收カラ申シマスレバ四千二百萬圓ノモノガ約七千四百萬圓マデ賣上ガ行クト云フ豫測ノ下ニ計算ヲ致シマシテ、平年度ニ於キマシテハ約二百萬圓ノ增收ガ政府納付金ニアルト云フ計算カラ、六年度ハ其半額ノ約百萬圓ガ增收サレルモノト計算イタシテ居ル次第デゴザイマス

○子爵藏萬應君 私マダ質問ガゴザイマスガ明日ニ繼續シテモ宜シウゴザイマスガ、唯一ツ簡單ナコトデゴザイマスカラ御尋ネ申シタイ、今回「ブラッセー」式ヲ御採用ニナルコトハ大變結構ナコトダと思ヒマス、全體最初カラ「ブラッセー」式ヲ併用サレナカッタト云フコトガ今日ノ競馬ノ弊害ヲ釀

シタ原因ノ一ツデハナイカト考ヘテ居リマス、一體此「ブラッセー」式ハドウ云フ方法デ、矢張り三著マデ拂戻ヲ御許シニナルノデアリマスカ、或ハ二著マデデスカ、拂戻ノ方法ハ何ウ云フコトデオヤリニナルカ、例ヘバ佛蘭西式デオヤリニナルカ、濠洲式デオヤリニナルカ、其點ヲ承ハリタイ

○政府委員(戸田保忠君) 複勝式ヲ實際ニ

行ヒマス點ニ付テハ、御話ニアリマスヤウニ三著マデノ拂戻ヲ致シマスコトガ各國ノ例デゴザイマス、實際ノ執行ニ當リマシテ考慮イタシマスノハ唯日本ニ於キマシテハマダ初メテノコトデゴザイマスカラ、或ハ斯ウ云フ風ニスルガ宜イノデハナイカト云フコトヲ考ヘテ居リマス、規則ノ上デハ三著マデト致シマシテ當分馴レル迄ハ二著迄ノ拂戻ヲ行ヘルト云フ方法ヲ採ッタ方ガ實際ノ施行上間違ガ無クテ宜イデハナイカト云フコトヲ考ヘテ居リマス、併シ是ハマダ施行規則ヲ實際作リマス上ニ於テハ更ニ講究イタシマシテ、實施ニ付キマシテハ競馬俱樂部等ノ意見等モ參酌シタイト考ヘテ居リマスガ、只今考ヘマス所デハ、規則デハ三著マデトシマシテ、先ヅ二著ノモノモ行ヒ得ルヤウニスルノガ或ハ實際的デハナイカト考ヘテ居ル次第デアリマス、併シ俱樂部ニ依

リマシテハ三著マデ出來ルト云フ確信ノアル所ハ之ヲヤラシテモ宜イト考ヘテ居リマスノデ、今必ズ三著マデヲ施行イタシマスカ、二著マデノミヲ施行イタシマスカト云フコトニ確定的ニハ實ハ未ダ考ヘテ居リマセヌ、考慮ノ餘地ガアルヤウニ考ヘテ居リマス、ソレカラ複勝式ヲ行ヒマス方法ハ、御尋モゴザイマシヤウニ、其比率ヲ大體一、一、一ト致シマス佛蘭西式方法ト、濠洲式デゴザイマスガ、濠洲式ノ方ハ單勝式ヲ併セ行ヒマス場合ニハ實ハ少シ趣ヲ異ニシテ居ルヤウデアリマシテ、濠洲式ハ所謂「ブラッセー」式ヲ加味シタ單勝式ヲ行フ一種ノ方法ノヤウニ存ジテ居ルノデアリマスケレドモ、折衷シタモノヲ考ヘレバ五、三、二ト云フ風ナヤリ方モ一ツノ方法デアラウト思ヒマス、其方法ニ付テハ、今マデ一枚シカ賣レナイ時代ニ於テモ、相當考ヘタノデスカ、竝立シテ行フト云フコトニナリマスレバ、一枚ノヲ選擇のニ複勝式ヲ行ヒマスノトハ餘程趣ヲ異ニシテ居ルト思ヒマス、從テ一人一枚ノ範圍内ニ於テ複勝式ヲ考ヘマスノト、單勝式ト複勝式ヲ併セ行ヒマスコトガ、此度ノ法律ニ依ッテ出來ルヤウニナリマス趣旨トハ、稍、考ヘ方ヲ違ヘテ居ル點ガアルヤウニ思ヒマス、只

今ノ所デハ何レノ式ニ依ルカト云フコトヲ實ハハッキリ決メテ居リマセヌノデアリマスガ、各方面カラ施行ノ狀況ヲ研究イタシマシテ、或ハ佛蘭西式トカ濠洲式ト云フモノデナク、日本式ノモノヲ考ヘルノガ宜イカモ知レマセヌ、其點ハマダ若干考究ノ餘地ヲ實ハ存シテ居ルノデアリマス

○委員長(伯爵黑木三次君) 大島君ニ伺ヒ

マスガ……

○大島健一君 大體推測ガ付キマシタカラ

宜シウゴザイマス

○委員長(伯爵黑木三次君) ソレデハ如何

デセウカ、參考書類ヲ戴キマシテ、是ハマダ皆御熱讀ニナッテ居ラレスト心得マスルノデ、今日ハ此程度デ散會イタシテ、明日ハ午前十時カラ開會イタシタイト思ヒマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○委員長(伯爵黑木三次君) ソレデハサウ

云フ風ニ致シマス、是デ散會イタシマス

午後三時二十三分散會

出席者左ノ如シ

- 委員長 伯爵黑木 三次君
- 副委員長 岡田 文次君
- 委員 侯爵德川 賴貞君

子爵池田 政時君

子爵立花 種忠君

子爵藪 篤麿君

子爵西尾 忠方君

大島 健一君

男爵鍋島 直明君

男爵小原 駘吉君

坂西利八郎君

男爵千田 嘉平君

男爵關 義壽君

中村純九郎君

馬場 鏌一君

加藤政之助君

山崎 龜吉君

鳴海周次郎君

國務大臣

農林大臣 町田 忠治君

政府委員

陸軍政務次官 子爵伊東二郎丸君

陸軍參與官 吉川吉郎兵衛君

陸軍少將 小磯 國昭君

農林參與官 山田 道兄君

農林省畜產局長 戶田 保忠君

農林書記官 田淵 敬治君

説明員

陸軍騎兵大佐 高波 祐治君

農林技師 横屋 潤君

昭和六年四月二日印刷

昭和六年四月四日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局